

平成19年度

男女共同参画社会に関する 市民意識調査報告書

〔概要版〕



のいちどんまん
©やせたか



かがみ みかんちゃん
©やせたか



よしかわ うなお君
©やせたか



あかおか えきんさん
©やせたか



やす にんぎょちゃん
©やせたか

平成20年3月

香 南 市

調査の概略

1. 調査の目的

この調査は、男女共同参画計画策定作業など香南市の行政施策を推進していくうえで基礎資料を得ることを目的に実施しました。

2. 調査の対象 香南市在住の満20歳以上の男女2,000人

3. 調査方法 郵送法

4. 調査時期 平成19年11月9日～11月26日

5. 回収状況 1,022人(有効回収率 51.1%) 男性 453人 女性 569人

6. 調査結果の見方

(1) グラフのNは、回答者数を表しています。

(2) 複数回答の場合は、比率の合計が100%を超えることがあります。

(3) 小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならないことがあります。

(4) 設問によっては平成16年度高知県の調査結果を表示していますが、調査年度等が異なることに留意の上、参考にして下さい。

目次

調査結果のあらまし	1
1. 男女平等意識	5
2. 結婚、家庭、離婚について	8
3. 理想に最も近い家庭における男女の役割分担	8
4. 現在の夫婦の役割分担と満足度	9
5. 家庭での最終決定者	10
6. 女性の働き方	10
7. 職場環境について	11
8. 男女がともに働きやすい環境をつくるために、必要だと思うこと	12
9. 社会的活動への関わり方	13
10. 男女共同参画社会を実現するために、力を入れていくべきだと思うこと	18
11. 子どもの育て方について	19
12. 出生数が少なくなっている理由	20
13. 子育てを支援するために必要だと思う条件整備	21
14. 介護の実態	22
15. 将来の介護の希望	24
16. 高齢者を介護していくために、必要だと思われる条件整備	25
17. 男女共同参画に関する法律や制度の周知度	26
18. 配偶者や恋人関係にあった者への暴力等の行為について	27
19. 配偶者や恋人関係にあった者による暴力等の行為について	31

調査結果のあらまし

1. 男女平等意識

【家庭生活】、【職場生活】及び【社会通念・慣習・しきたり】については、『男性優遇』という人の割合が高く、【学校教育】は「平等」という人の割合が高くなっている。【法律や制度の上】は、「平等」が『男性優遇』をやや上回っている。

2. 結婚、家庭、離婚について

【結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい】や【女性は結婚したら、自分自身のことより夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい】、【結婚しても価値観や性格が合わないときは離婚すればよい】、【一般に、今の社会では離婚すると女性の方が不利である】は『賛成』が『反対』を上回っている。

【結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない】は『反対』が『賛成』を上回っている。

3. 理想に最も近い家庭における男女の役割分担

男女とも「共同で家計、共同で家事・育児」が最も高いが、その割合は女性が5割弱で、男性の4割弱を1割強上回っている。

4. 現在の夫婦の役割分担と満足度

現在の夫婦の役割分担は「共同で家計、主に妻が家事・育児」が3割半ばで最も高く、これに「夫が家計、妻が家事・育児」が続き、理想の役割分担で最も高い割合を占めていた「共同で家計、共同で家事・育児」は1割半ばで3番目となっている。

現在の役割分担の満足度は、男性は『満足している』割合が8割強であるのに対して、女性は6割半ばとなっている。

夫婦の役割分担別満足度は、「共同で家計、共同で家事・育児」の満足度が8割半ばとなっている。

5. 家庭での最終決定者

【家計費管理】、【貯蓄・投資】及び【妻の就職・転職】では「妻」、【土地、家屋の購入】では「夫婦」、【夫の就職・転職】や【家庭全体の实権を握っているのはどなたですか】では「夫」が主な最終決定者となっている。

6. 女性の働き方

女性の現在の働き方は「結婚や出産に関わらず、仕事を続けている(いた)」が4割弱で最も高くなっている。一方、女性の望ましい働き方は「子育ての時期だけやめて、その後はフルタイム」が2割半ばで最も高く、このほか、「子育ての時期だけやめて、その後はパートタイム」も2割半ばで、「結婚や出産に関わらず、仕事を続ける」は2割強となっている。

7. 職場環境について

いずれの項目も「改善すべきだと思う」が最も高い割合を占めるなかで、【パートと正社員の待遇に差がある】と【自営業や農林漁業など、家業に従事する女性には決まった給料もなく休日も少ない】については「しかたがないと思う」がそれぞれ3割弱、2割半ばとなっている。

8. 男女がともに働きやすい環境をつくるために、必要だと思うこと

男女とも「男女を対象とする仕事と子育て・介護の両立を支援する体制を整備する」が最も高いが、その比率は女性が6割半ば、男性は5割強で、女性が1割強上回っている。

9. 社会的活動への関わり方

【自治会・町内会の役員活動】は『参加している』という割合が3割強と最も高いが、「参加したくないがやむなく参加している」という割合も他の項目に比べて高くなっている。このほか、【PTA・子ども会の役員活動】も「参加したくないがやむなく参加している」が1割強となっている。一方、【趣味・スポーツ・学習・文化などのサークル活動】は「参加したいから参加している」という割合が2割半ばを占めている。このほか、【福祉・ボランティア活動】、【健康づくり・食生活改善などに関する活動】、【自治会・町内会の役員活動】は「参加したいから参加している」が1割強となっている。

【自然保護・環境破壊など環境問題に関する活動】では、「参加したいが事情があって参加していない」という割合が4割強で、【健康づくり・食生活改善などに関する活動】と【福祉・ボランティア活動】が4割弱、【趣味・スポーツ・学習・文化などのサークル活動】は3割半ばとなっている。

【国際交流・協力に関する活動】、【国・県・市町村の審議会や委員会に関する行政活動】及び【議会などの政治と関わる活動】では、「関心がないから参加していない」という割合が4割弱となっている。

10. 男女共同参画社会を実現するために、力を入れていくべきだと思うこと

「女性をとりまくさまざまな偏見や固定的な社会通念、慣習、しきたりを改めること」が3割強で最も高くなっている。男性は「法律や制度の面で見直しを行い、男女差別につながるものを改めること」、女性は「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に能力の向上を図ること」が最も高くなっている。「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に能力の向上を図ること」と「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」では女性が男性を1割強～1割半ば上回っているのに対し、「法律や制度の面で見直しを行い、男女差別につながるものを改めること」では男性が女性を1割強上回っており、これらの項目では男女の比率の差が大きくなっている。

11. 子どもの育て方について

【女の子】に求めているのは、「礼儀や言葉づかい」の比率が最も高く、ついで「素直で明るい性格」、「人間性を豊かに」となっている。

一方、【男の子】には、「根気強さや、責任感」を求める人の比率が7割弱、ついで「人間性を豊かに」が6割弱、「礼儀や言葉づかい」が4割強となっている。

性別にみると、【女の子】には、男性は「素直で明るい性格」、女性は「礼儀や言葉づかい」を最も多くの人々が求め、【男の子】には、男女とも「根気強さや、責任感」を求めている人が多くなっている。

12. 出生数が少なくなっている理由

「経済的に余裕がないから」が6割半ばと最も高く、これに「子どもの教育にお金がかかるから」と「仕事をしながら子育てをするのが困難だから」が6割弱で続いている。「仕事をしながら子育てをするのが困難だから」は、男性の5割弱に対して、女性は6割半ばと、男女間に1割半ばの差がある。

13. 子育てを支援するために必要だと思う条件整備

「保育サービスの充実」が6割半ばで最も高くなっている。「子育てにかかる経済的負担を軽減する」は男性の6割半ばに対して、女性は5割弱で、また、「子どもが病気の時の休暇をとりやすくする」は男性の3割強に対して、女性は4割半ばであり、これらは他の項目より男女間の比率の差が大きくなっている。

14. 介護の実態

日常生活において支援や介助を必要とする高齢者が「いる」と回答した人の割合は2割半ばで、その高齢者と「同居している」割合は6割弱となっている。

主な介護者は、「高齢者の配偶者(妻)」が2割半ばで最も高く、ついで「高齢者の息子の妻」も2割半ば、「高齢者の息子」と「病院または施設に入っている」は2割強、「高齢者の娘」が2割弱となっている。

15. 将来の介護の希望

将来、介護が必要になった場合、希望する介護の場所は、「現在の自分の家」が4割半ばで最も高くなっている。

希望する介護の場所として「現在の自分の家」または「子どもの家」を選択した人が、主に介護をしてもらいたいのは、男女とも「あなた(自身)の配偶者」が最も高いが、その割合は男性が6割半ばで、女性が3割強と、男性が女性よりも3割半ば高くなっている。

「老人保健施設」や「介護ケア付き集合住宅」等を希望する介護の場所として選択した理由は、「家族に介護してもらうことに遠慮や気兼ねがある」が3割半ばで最も高くなっている。

16. 高齢者を介護していくために、必要だと思われる条件整備

「介護にかかる経済的負担を軽減する」が8割強と最も高く、ついで「在宅福祉サービスの充実」が7割弱、「施設福祉サービスの充実」が5割半ばとなっている。

17. 男女共同参画に関する法律や制度の周知度

「内容を知っている」と回答した人の割合が最も高いのは、【育児休業制度】で4割半ば、ついで【配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律(いわゆるDV防止法)】と【男女雇用機会均等法】が3割強となっている。一方、「知らない」と回答した人の割合が最も高いのは、【次世代育成支援対策推進法】で6割強、ついで【高知県男女共同参画社会づくり条例】が4割半ば、【パートタイム労働法】は3割となっている。

18. 配偶者や恋人関係にあった者への暴力等の行為について

『あった』（「何度もあった」＋「1、2度あった」）の割合は全体では、【大声でどなる】が3割弱で最も高く、ついで【何を言っても、長時間無視し続ける】が1割半ば、【平手でぶつ、足でける】、【物を投げつける】及び【ドアをけったり、壁に物を投げて、おどす】はいずれも1割強となっている。性別にみると、ほとんどの項目で男性の方が女性よりも高い割合となっている。

そのような行為に至ったきっかけは、男女とも「いらいらがつのり、ある出来事がきっかけで感情が爆発した」が最も高くなっている。

そのような行為をしたことについては、男性は「自分が悪かったと思い、その後は同じことをしていない」、女性は「自分が悪かったとは思っていない」が最も高くなっている。

19. 配偶者や恋人関係にあった者による暴力等の行為について

受けたことが『ある』（「何度もあった」＋「1、2度あった」）割合は、【なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する行為を受けた】が14.2%で最も高く、性別には女性が18.4%、男性は8.8%と女性の方が1割弱高くなっている。

相手の行為によって、命の危険を「感じたことがある」割合は、女性は13.9%、男性（2.2%）を11.7ポイント上回っている。

相手の行為によって、『ケガをした』（「ケガをして医師の治療を受けた」＋「ケガをして医師の治療が必要となる程度であったが、治療は受けなかった」＋「ケガをしたが、医師の治療が必要にならない程度であった」）割合は、女性が3割半ば、男性は2割強で女性が1割強上回っている。

受けた行為について、「相談しようとは思わなかった」割合が男女とも最も高く、「相談しようとは思わなかった」割合は男性が女性を上回り、「相談した」と「相談できなかった」は女性が男性を上回っている。

受けた行為についての相談先の割合は、「家族・親せき」、「友人・知人」の順で高くなっている。

受けた行為について「相談できなかった」または「相談しようとは思わなかった」理由は、男女とも「相談するほどのことではないと思ったから」が最も高いが、その比率は男性が女性よりも1割弱高くなっている。「自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思ったから」は女性が男性を1割半ば上回っており、「自分に悪いところがあると思ったから」は男性が女性を1割半ば上回っている。

注) この「調査結果の概要」とこれに続く各設問のコメントにおける回答比率（割合）表示については、一部設問を除いて、%（パーセント）と表示せず、○割、○割強、○割弱、○割半ばといった表示をしています。それぞれの表示は、次を目安としています。

○割 ……○割ちょうど

○割強 ……○割＋0.3割以内

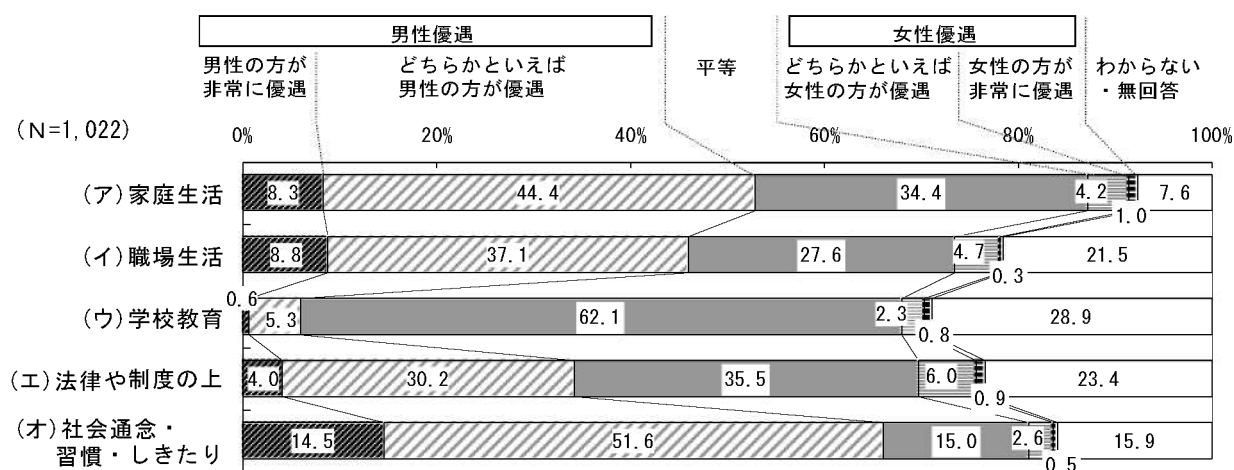
○割弱 ……○割－0.3割以内

○割半ば ……○割＋0.3割超～○割＋0.7割未満

1. 男女平等意識

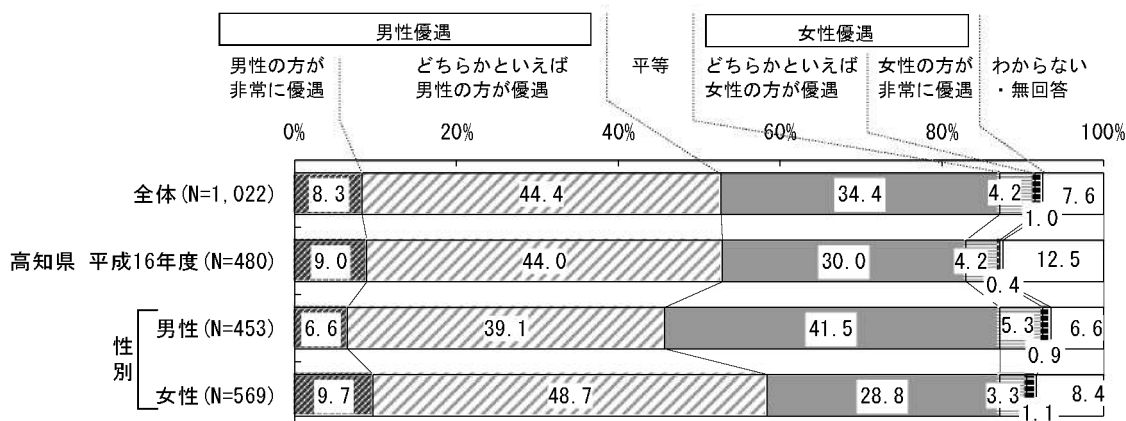
日常生活に関わりのある分野において男女の地位が平等になっているかどうかについてみると、【家庭生活】、【職場生活】及び【社会通念・慣習・しきたり】については、『男性優遇』という人の割合が高く、【学校教育】については「平等」という人の割合が高くなっている。【法律や制度の上】については、「平等」が『男性優遇』をやや上回っている。

注) 『男性優遇』: 「男性の方が非常に優遇されている」 + 「どちらかといえば男性の方が優遇されている」
 『女性優遇』: 「女性の方が非常に優遇されている」 + 「どちらかといえば女性の方が優遇されている」



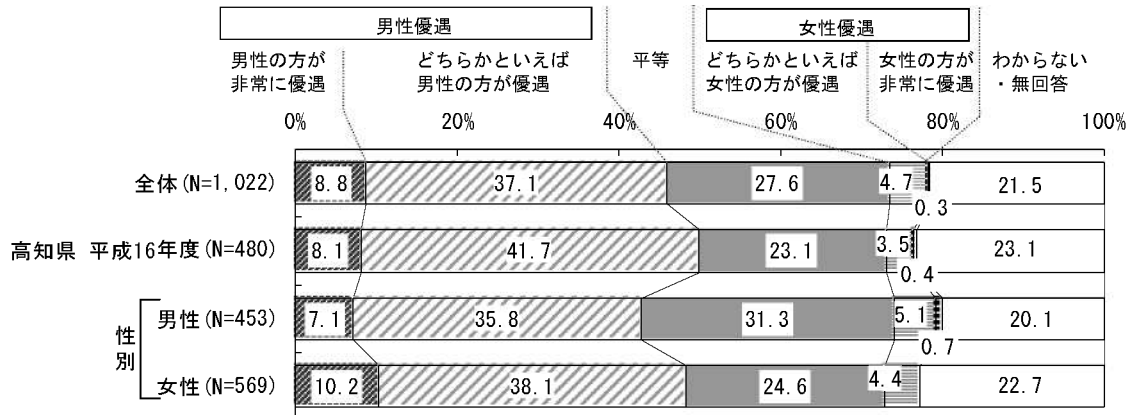
(ア) 家庭生活

『男性優遇』という人が5割強となっている。性別にみても、男女とも『男性優遇』が最も高いが、その割合は女性が男性よりも1割強高く、「平等」という人の割合は逆に、男性が女性よりも1割強高くなっている。



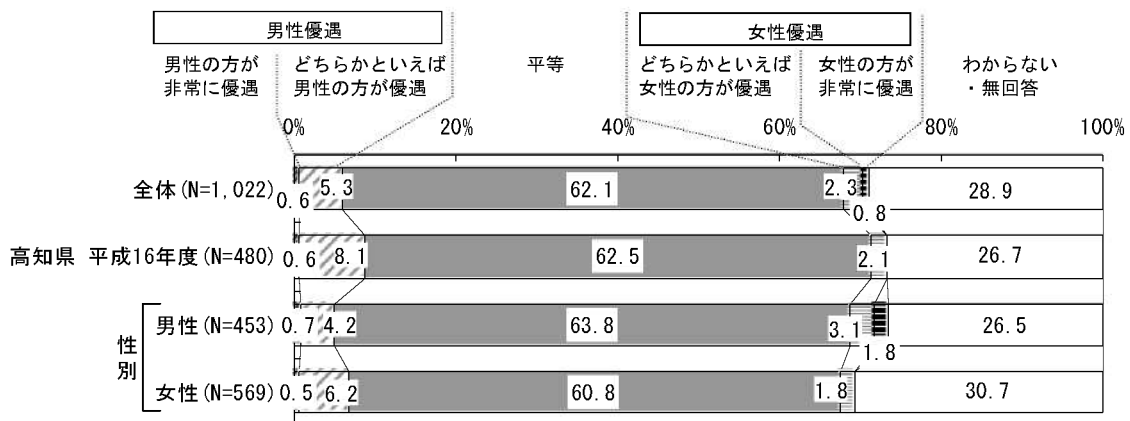
(イ) 職場生活

『男性優遇』という人の割合が4割半ばと最も高くなっている。性別にみても、男女とも『男性優遇』が最も高いが、その割合は女性が男性よりも高く、「平等」という人の割合は逆に、男性が女性よりも高くなっている。



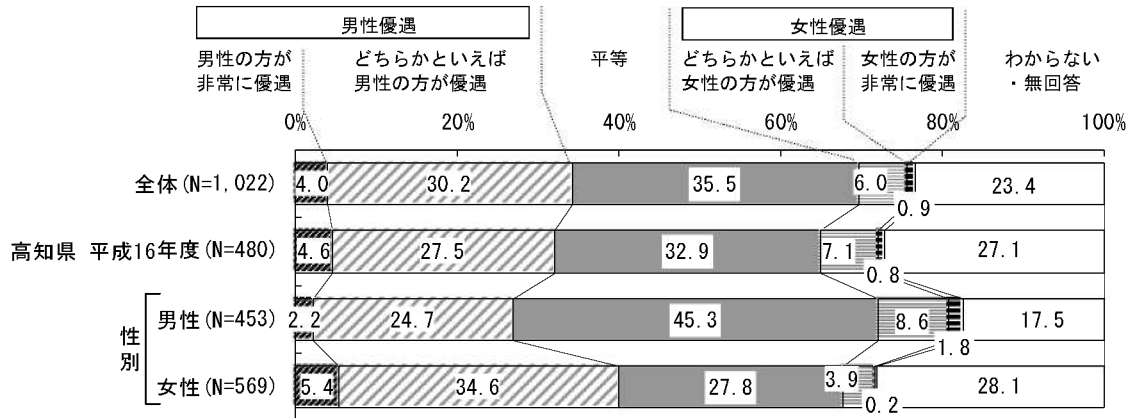
(ウ) 学校教育

「平等」が6割強を占めている。性別にみても、「平等」の割合が高く、男性では6割半ば、女性では6割強となっている。



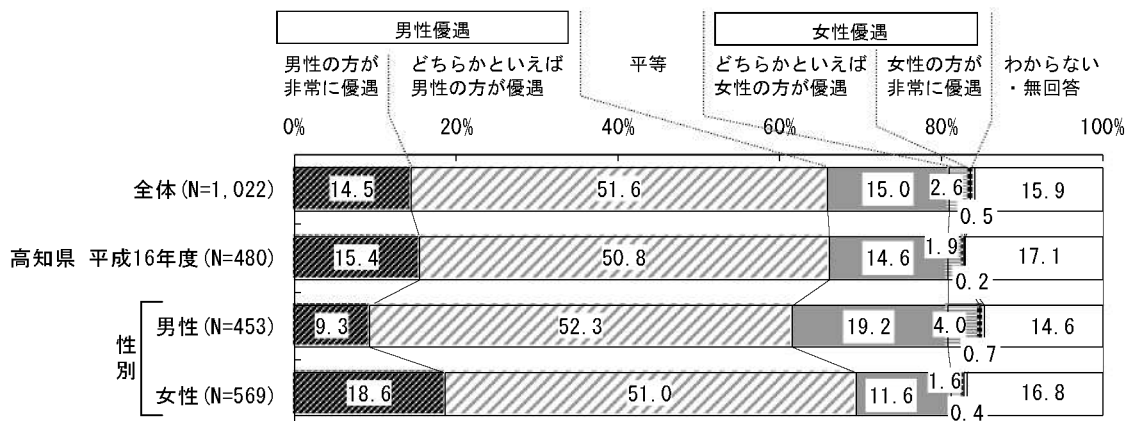
(エ) 法律や制度の上

「平等」と『男性優遇』がともに3割半ばを占めている。性別にみると、『男性優遇』という割合は女性が男性よりも高く、「平等」という割合は逆に、男性が女性よりも高くなっている。



(オ) 社会通念・習慣・しきたり

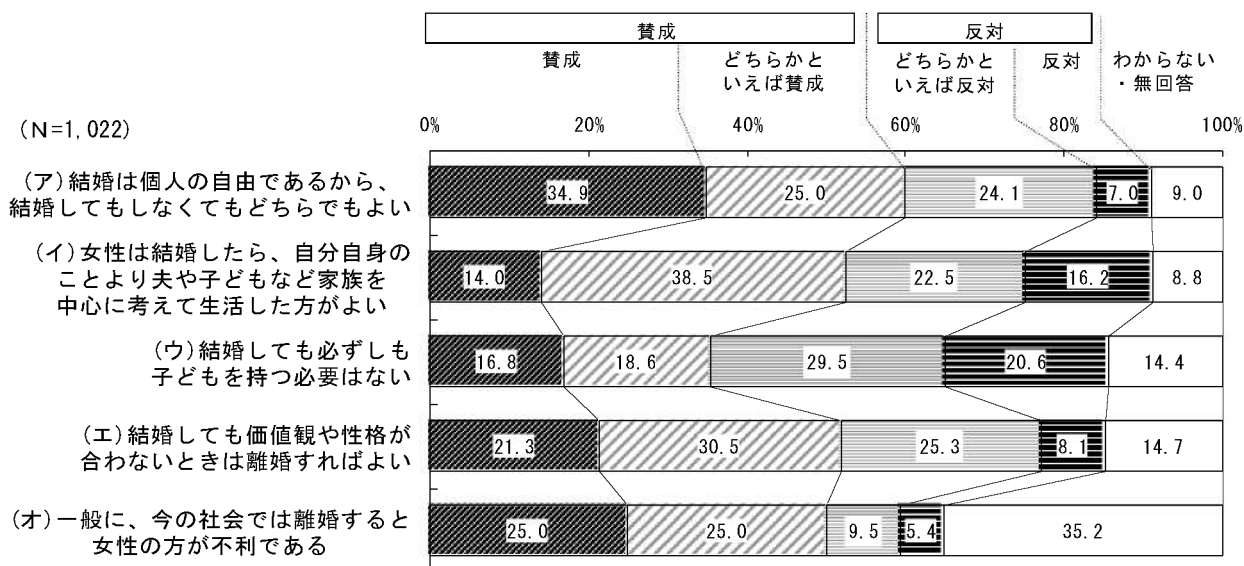
『男性優遇』と答えた人の割合が6割半ばを占め、男女平等意識についての全設問中、最も高い割合となっている。性別にみると、『男性優遇』という割合は女性が男性よりも高く、「平等」という割合は逆に、男性が女性よりも高くなっている。



2. 結婚、家庭、離婚について

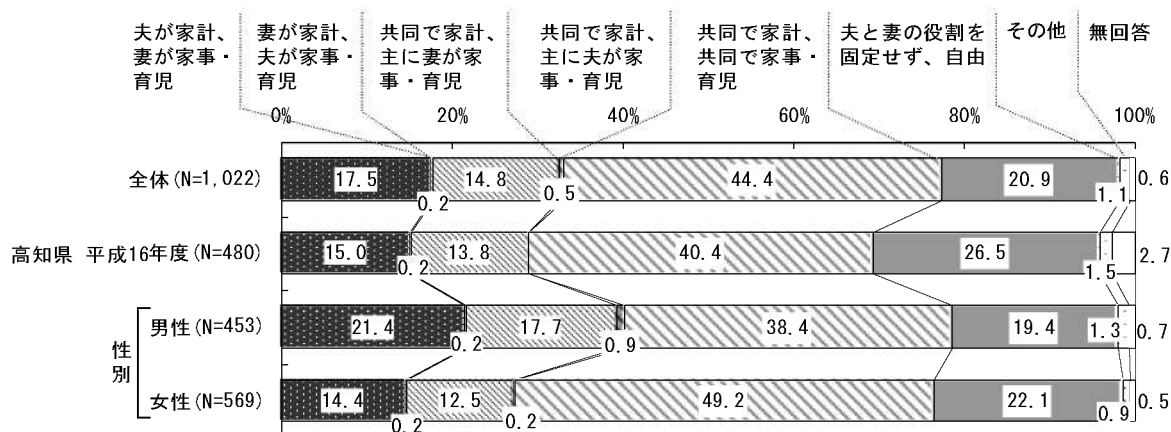
結婚、家庭、離婚に関するいくつかの考え方に賛同できるかどうかについてみると、【結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい】や【女性は結婚したら、自分自身のことより夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい】、【結婚しても価値観や性格が合わないときは離婚すればよい】、【一般に、今の社会では離婚すると女性の方が不利である】については『賛成』が『反対』を上回っているが、【結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない】については『反対』が『賛成』を上回っている。

注)『賛成』:「賛成」+「どちらかといえば賛成」、『反対』:「反対」+「どちらかといえば反対」



3. 理想に最も近い家庭における男女の役割分担

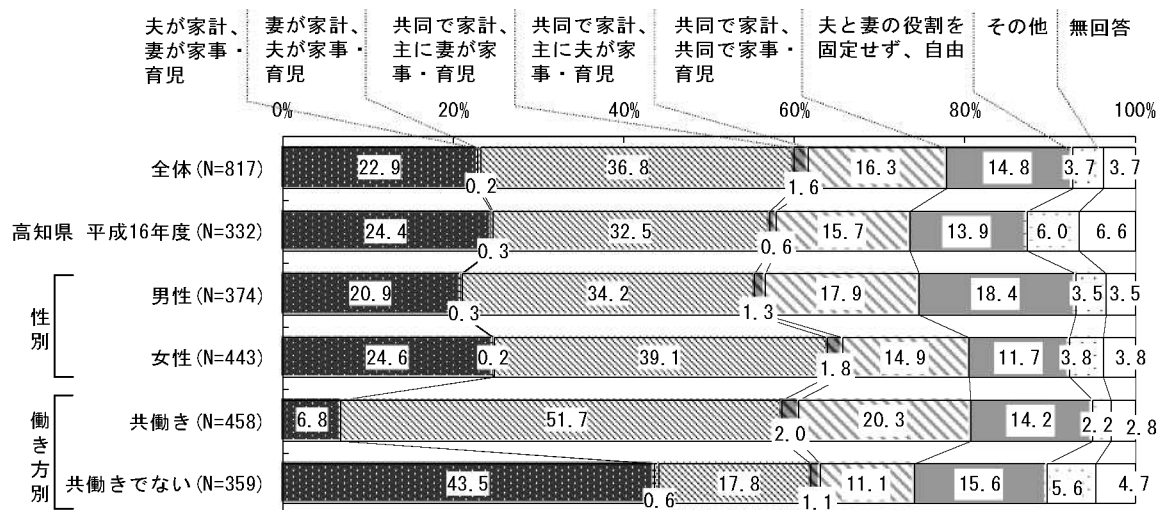
理想に最も近い家庭における男女の役割分担についてみると、「共同で家計、共同で家事・育児」を選んだ人が女性では5割弱で、男性の4割弱を1割強上回っている。



4. 現在の夫婦の役割分担と満足度

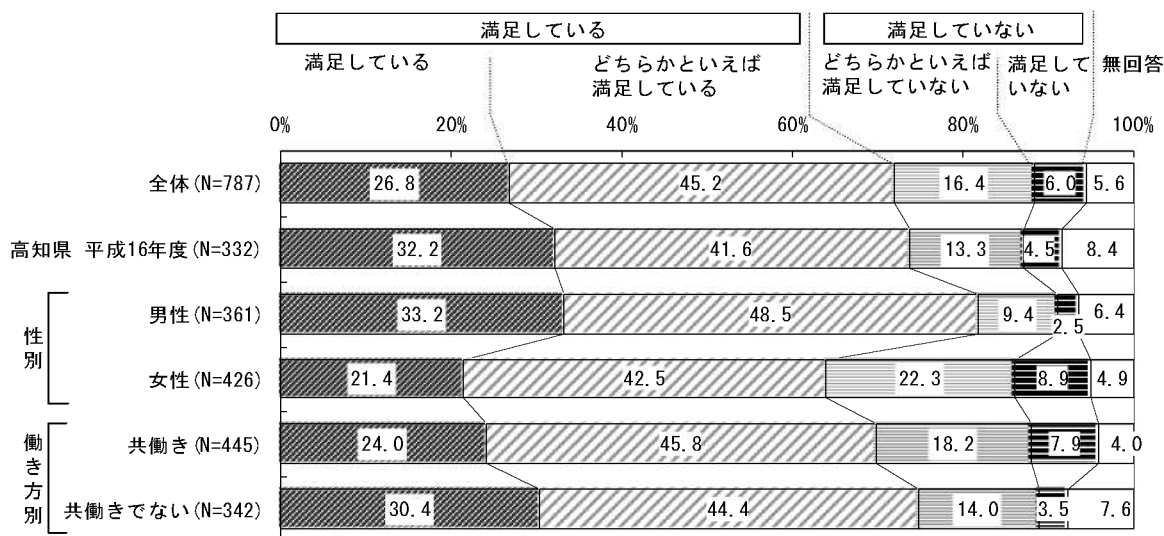
(1) 現在の夫婦の役割分担

結婚されている方が実際の夫婦の役割分担をどのようにしているかについてみると、「共同で家計、主に妻が家事・育児」を選んだ人の割合が最も高く、理想の役割分担で最も高い割合を占めている「共同で家計、共同で家事・育児」は、「夫が家計、妻が家事・育児」に続いて3番目となっている。



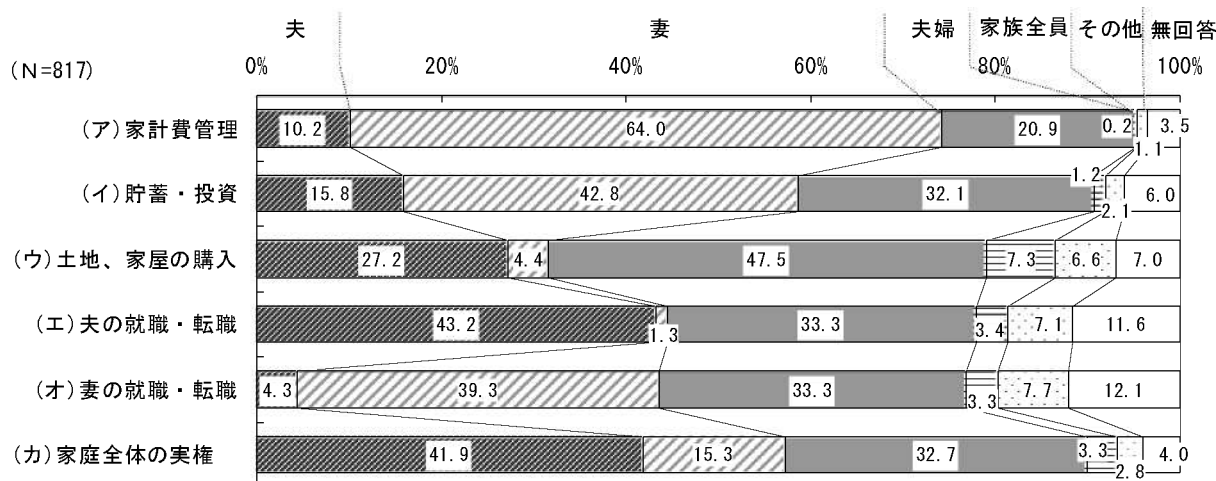
(2) 現在の役割分担の満足度

現在の役割分担の満足度についてみると、男性は『満足している』（「満足している」＋「どちらかといえば満足している」）という割合が8割強であるのに対して、女性は6割半ばとなっている。



5. 家庭での最終決定者

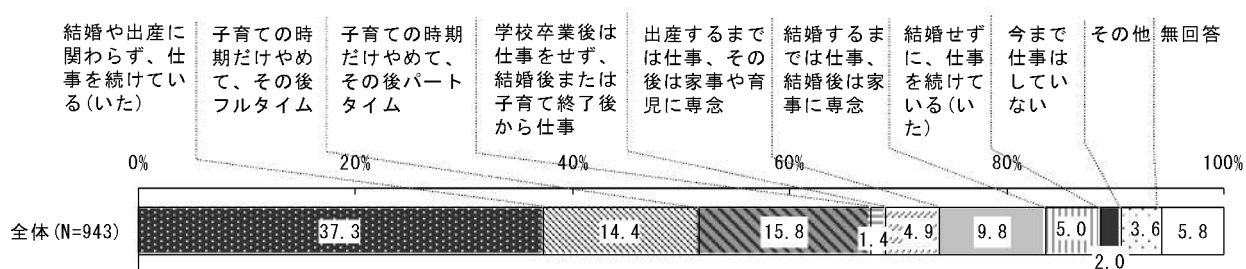
家庭運営に係る事項の最終決定者は誰かについてみると、【家計費管理】、【貯蓄・投資】及び【妻の就職・転職】については「妻」、【土地、家屋の購入】については「夫婦」、【夫の就職・転職】や【家庭全体の実権は握っているのはどなたですか】については「夫」が主に意思決定を行っている。



6. 女性の働き方

(1) 女性の現在の働き方

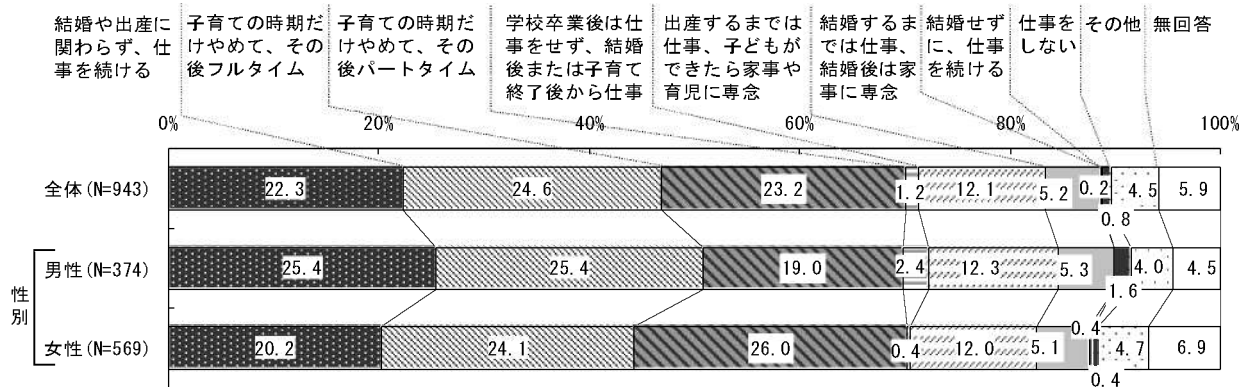
女性の現在の働き方については、「結婚や出産に関わらず、仕事を続けている(いた)」という割合が4割弱で最も高くなっている。このほか、「子育ての時期だけやめてその後パートタイム」と「子育ての時期だけやめてその後フルタイム」が1割半ばとなっている。



(2) 女性の望ましい働き方

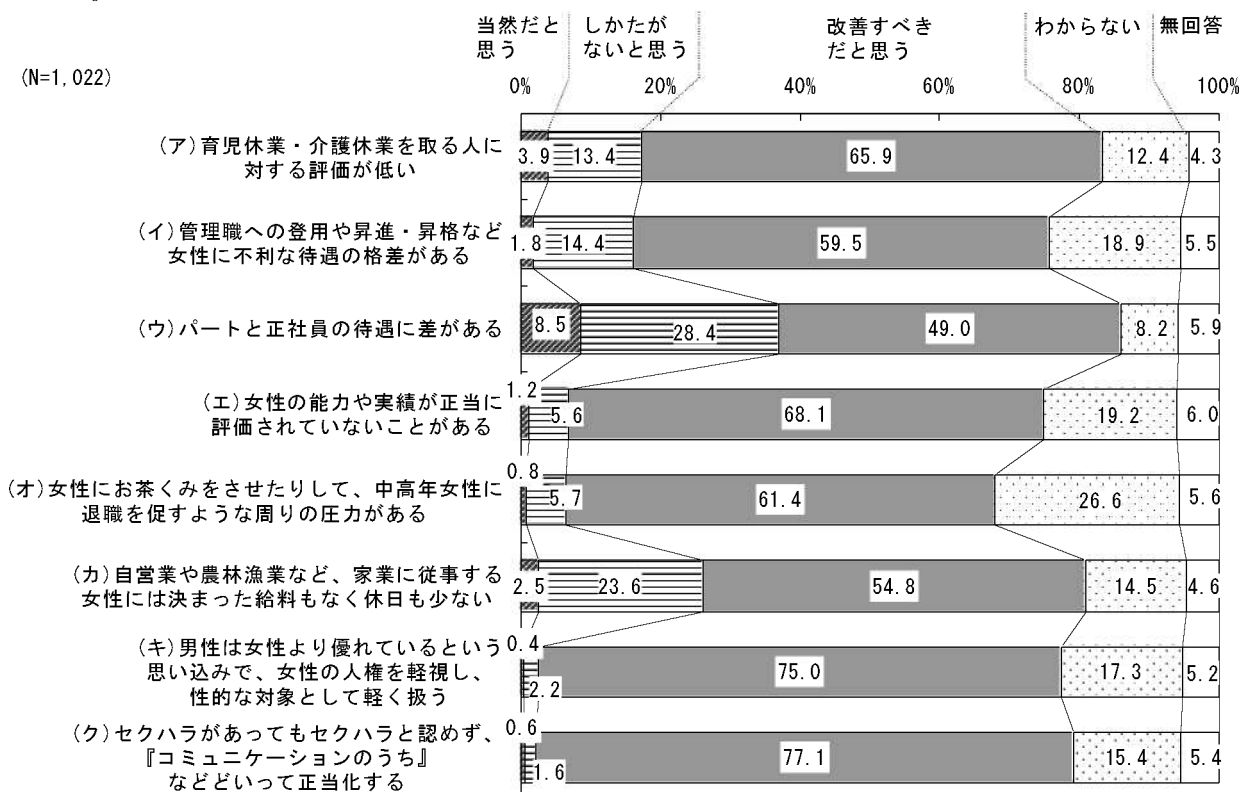
女性の望ましい働き方については、全体では「子育ての時期だけやめて、その後はフルタイム」、「子育ての時期だけやめて、その後はパートタイム」及び「結婚や出産に関わらず、仕事を続ける」が2割半ば～2割強で上位となっている。

「結婚や出産に関わらず、仕事を続ける」は男性の割合が女性よりも高く、「子育ての時期だけやめて、その後はパートタイム」は女性の方が高くなっている。



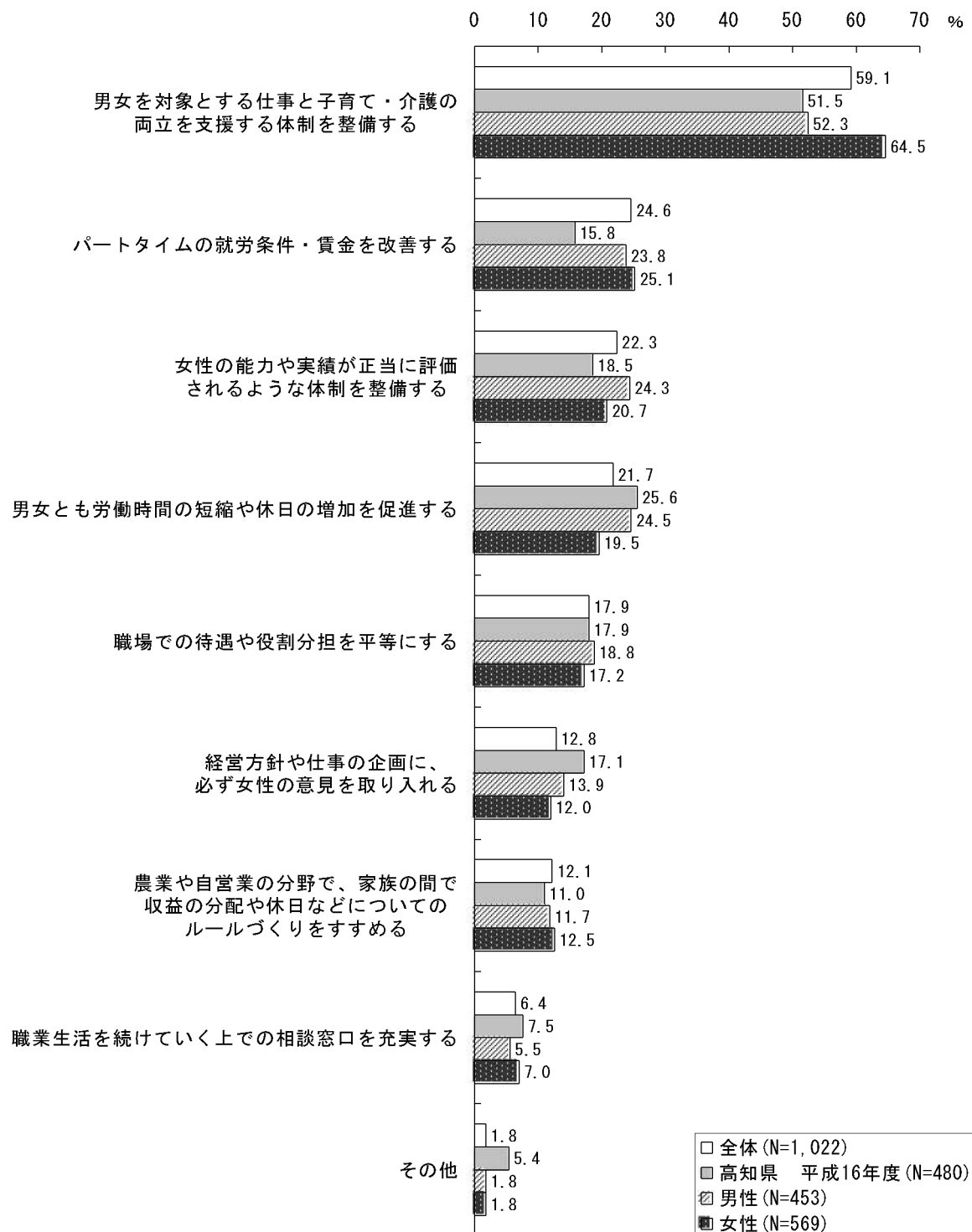
7. 職場環境について

職場環境に係る事象について改善すべきかどうかについてみると、いずれの項目でも「改善すべきだと思う」が最も高い割合を占めるなかで、【パートと正社員の待遇に差がある】や【自営業や農林漁業など、家業に従事する女性には決まった給料もなく休日も少ない】については、「しかたがないと思う」が2割半ば～3割弱となっている。



8. 男女がともに働きやすい環境をつくるために、必要だと思うこと (2つまで)

男女がともに働きやすい環境をつくるために必要なこととしては、男女とも「男女を対象とする仕事と子育て・介護の両立を支援する体制を整備する」という人の比率が最も高いが、その比率は女性が6割半ばで男性の5割強を1割強上回っている。

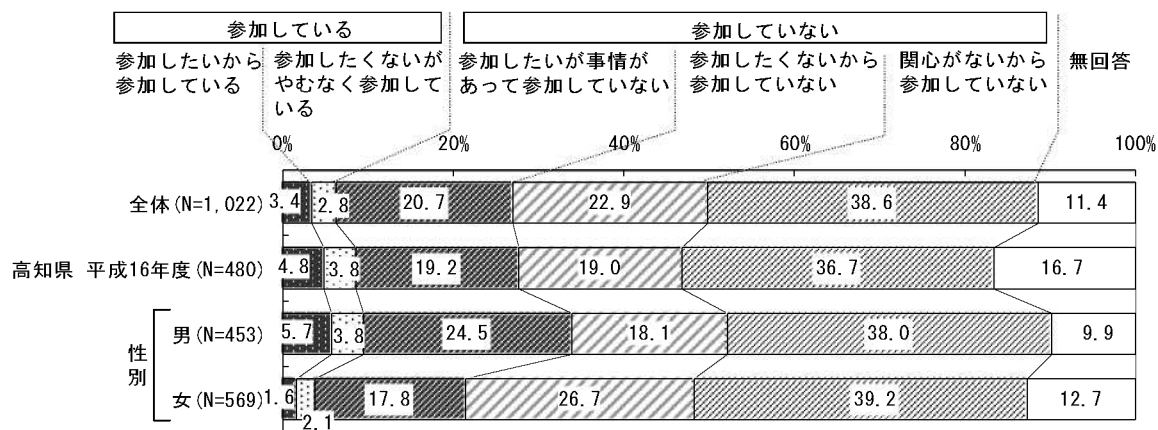


9. 社会的活動への関わり方

各種の社会的活動への関わり方については、次のような回答が得られた。

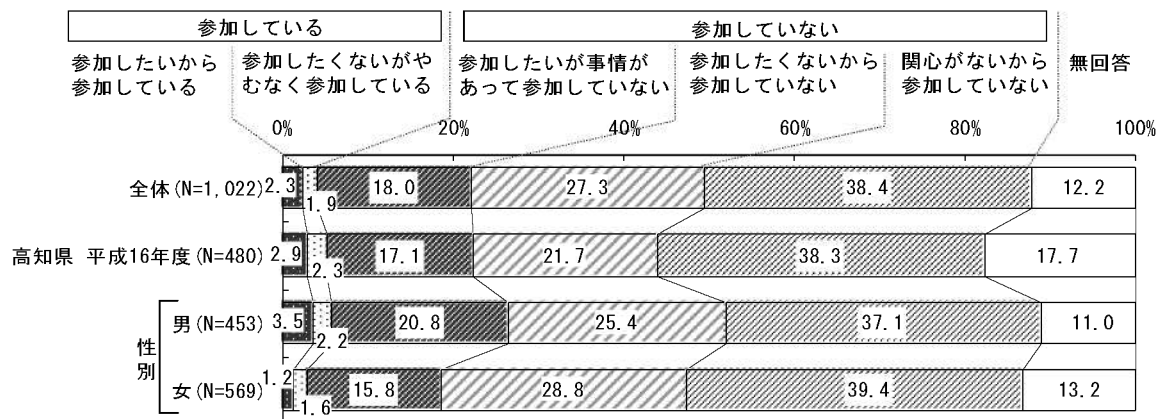
(ア) 国・県・市町村の審議会や委員会に関する行政活動

男女とも「関心がないから参加していない」という割合が最も高く、これを含む『参加していない』は女性が8割半ば、男性が8割強となっている。『参加している』と「参加したいが事情があって参加していない」については、いずれも男性の割合が高くなっている。



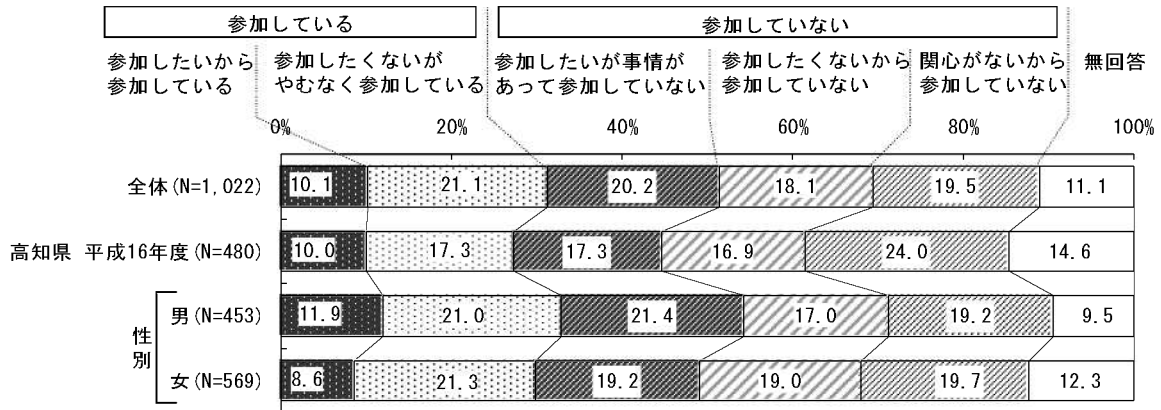
(イ) 議会などの政治と関わる活動

男女とも「関心がないから参加していない」という割合が高く、これを含む『参加していない』は8割半ばとなっている。『参加している』と「参加したいが事情があって参加していない」については、いずれも男性の割合が女性よりも高くなっている。



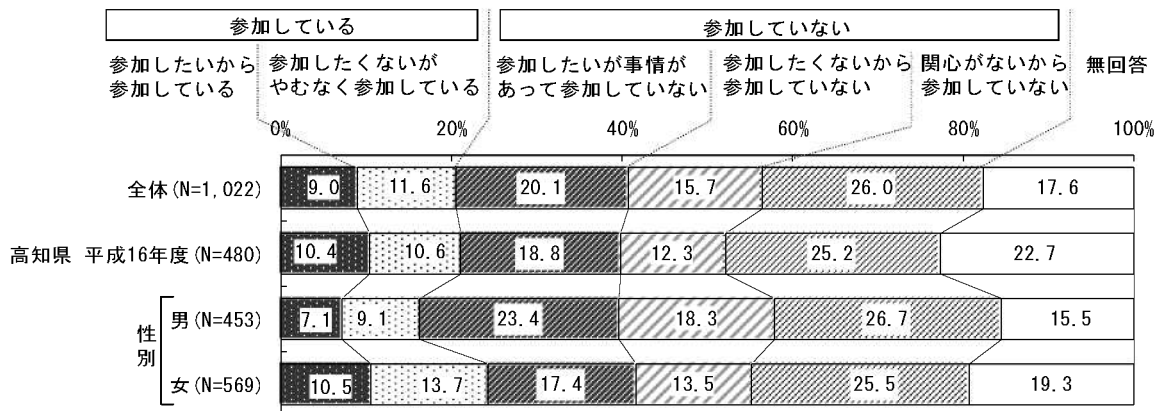
(ウ) 自治会・町内会の役員活動

全体では、「参加したくないがやむなく参加している」が2割強で最も高く、これに「参加したいから参加している」の1割強を加えた『参加している』は3割強となっている。一方、「参加したいが事情があって参加していない」、「関心がないから参加していない」及び「参加したくないから参加していない」を加えた『参加していない』は6割弱となっている。



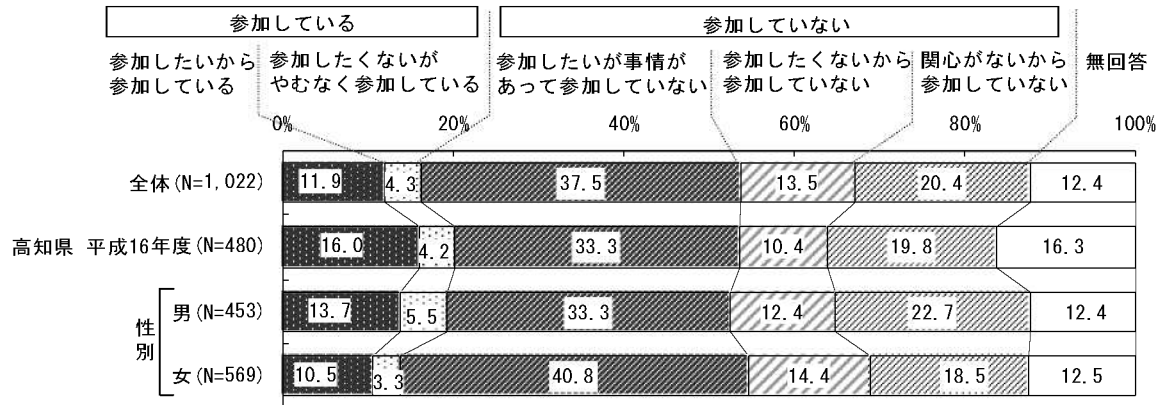
(エ) PTA・子ども会の役員活動

男女とも「関心がないから参加していない」が2割半ばを占めるなかで、『参加している』は女性の割合が高く、「参加したいが事情があって参加していない」は男性の割合が高くなっている。



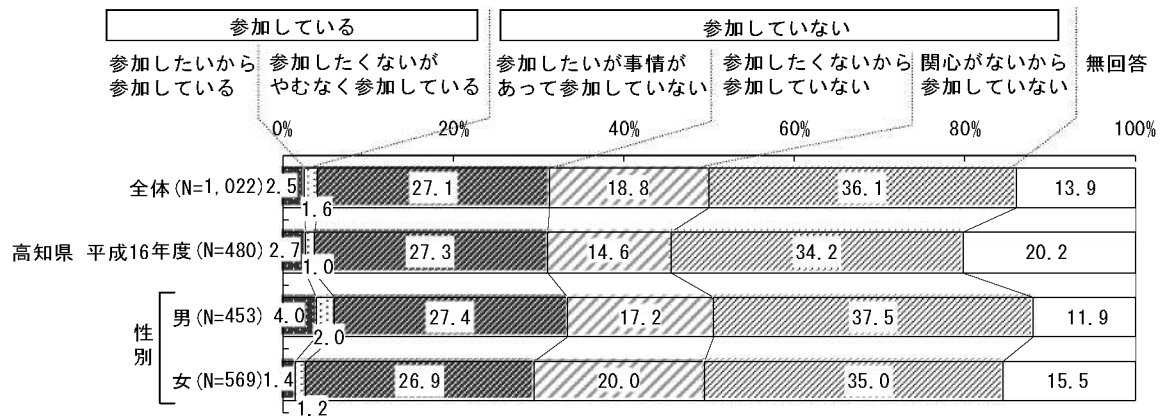
(オ) 福祉・ボランティア活動

男女とも「参加したいが事情があって参加していない」という割合が最も高いが、その割合は女性が4割強で男性の3割半ばを上回っている。『参加している』という割合は男性が女性よりも高くなっている。



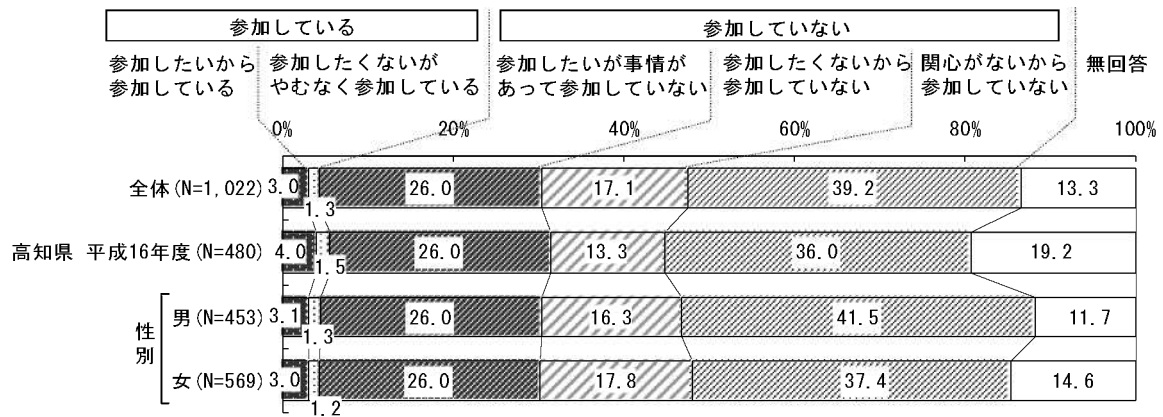
(カ) 男女平等に関する活動

男女とも「関心がないから参加していない」という割合が最も高く、これを含む『参加していない』が8割強となっている。



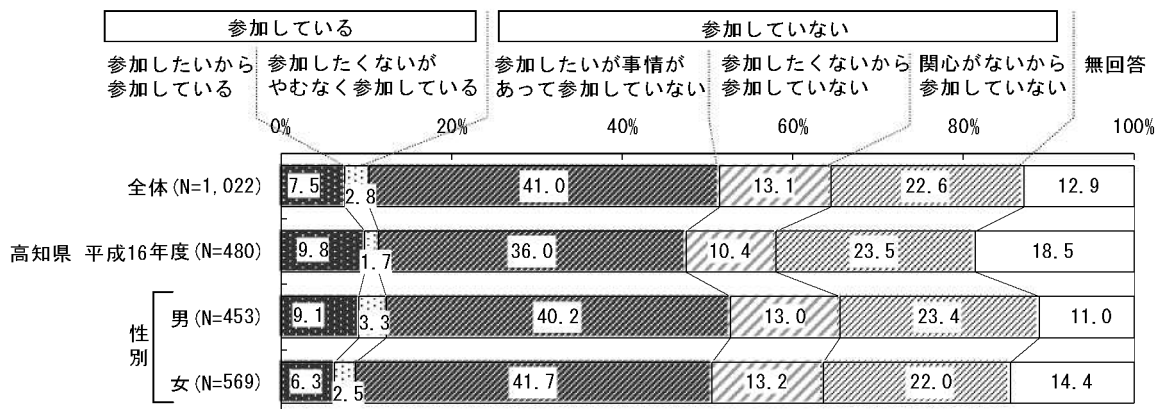
(キ) 国際交流・協力に関する活動

「関心がないから参加していない」という割合は男性が4割強、女性が4割弱、これを含む『参加していない』は男性が8割半ば、女性は8割強となっている。



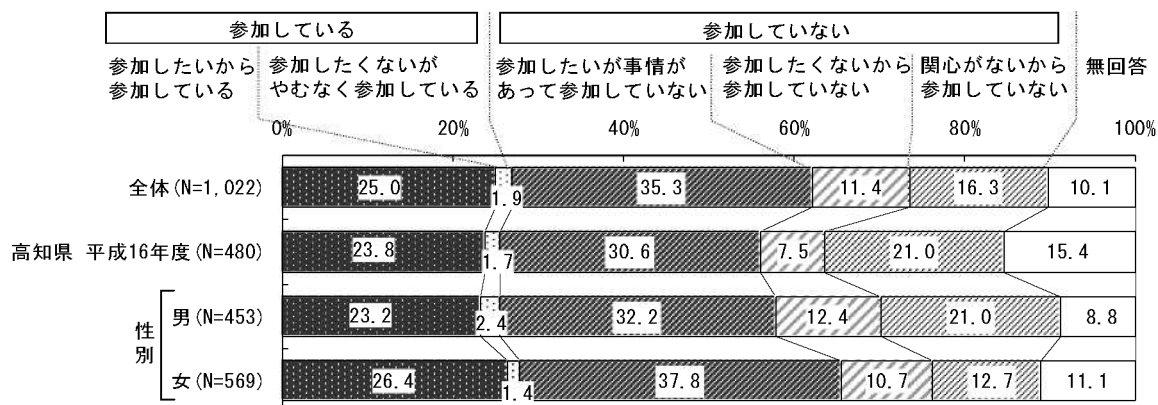
(ク) 自然保護・環境破壊など環境問題に関する活動

男女とも「参加したいが事情があって参加していない」が4割強で最も高く、これを含む『参加していない』はともに7割半ばとなっている。『参加している』は男性が1割強で女性より高くなっている。



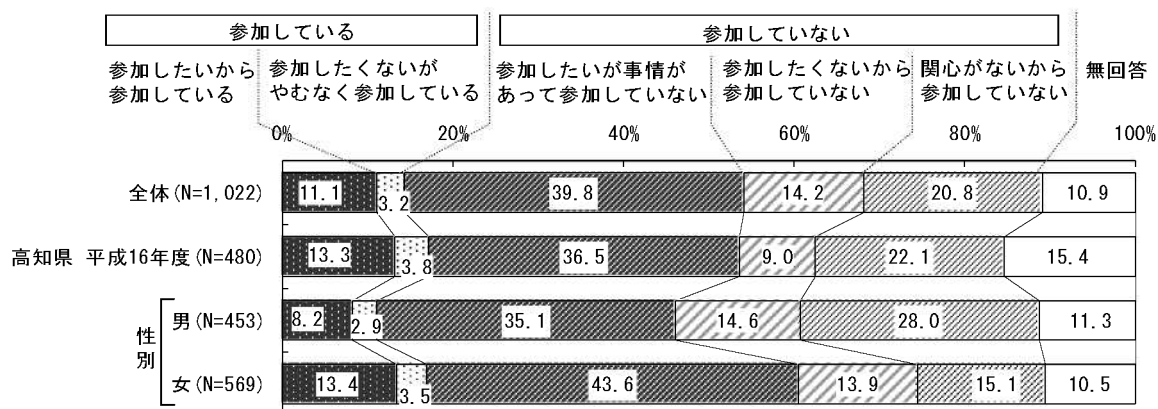
(ケ) 趣味・スポーツ・学習・文化などのサークル活動

「参加したいが事情があって参加していない」は女性が4割弱で、男性の3割強よりも高く、これを含む『参加していない』は男性が6割半ばで、女性の6割強を上回っている。また、『参加している』割合は男性が2割半ば、女性は3割弱で、社会的活動への関わり方の設問項目のなかでは最も高い割合となっている。



(コ) 健康づくり・食生活改善などに関する活動

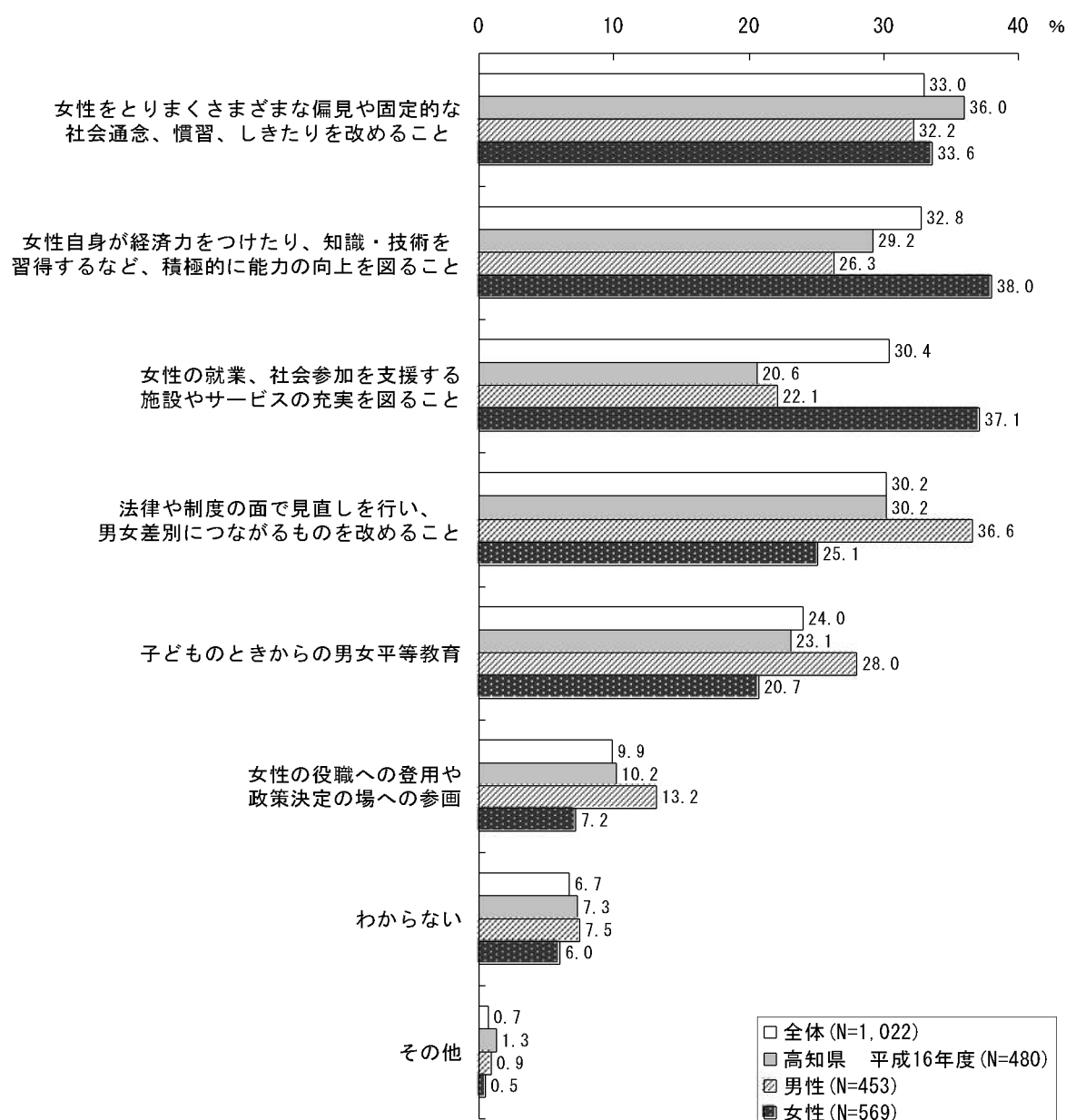
男女とも「参加したいが事情があって参加していない」が最も高いが、その割合は女性が4割半ばで、男性の3割半ばを上回っている。また、「関心がないから参加していない」は男性が3割弱で、女性の1割半ばを上回っている。一方、『参加している』割合は女性が男性よりも高くなっている。



10. 男女共同参画社会を実現するために、力を入れていくべきだと思うこと(2つまで)

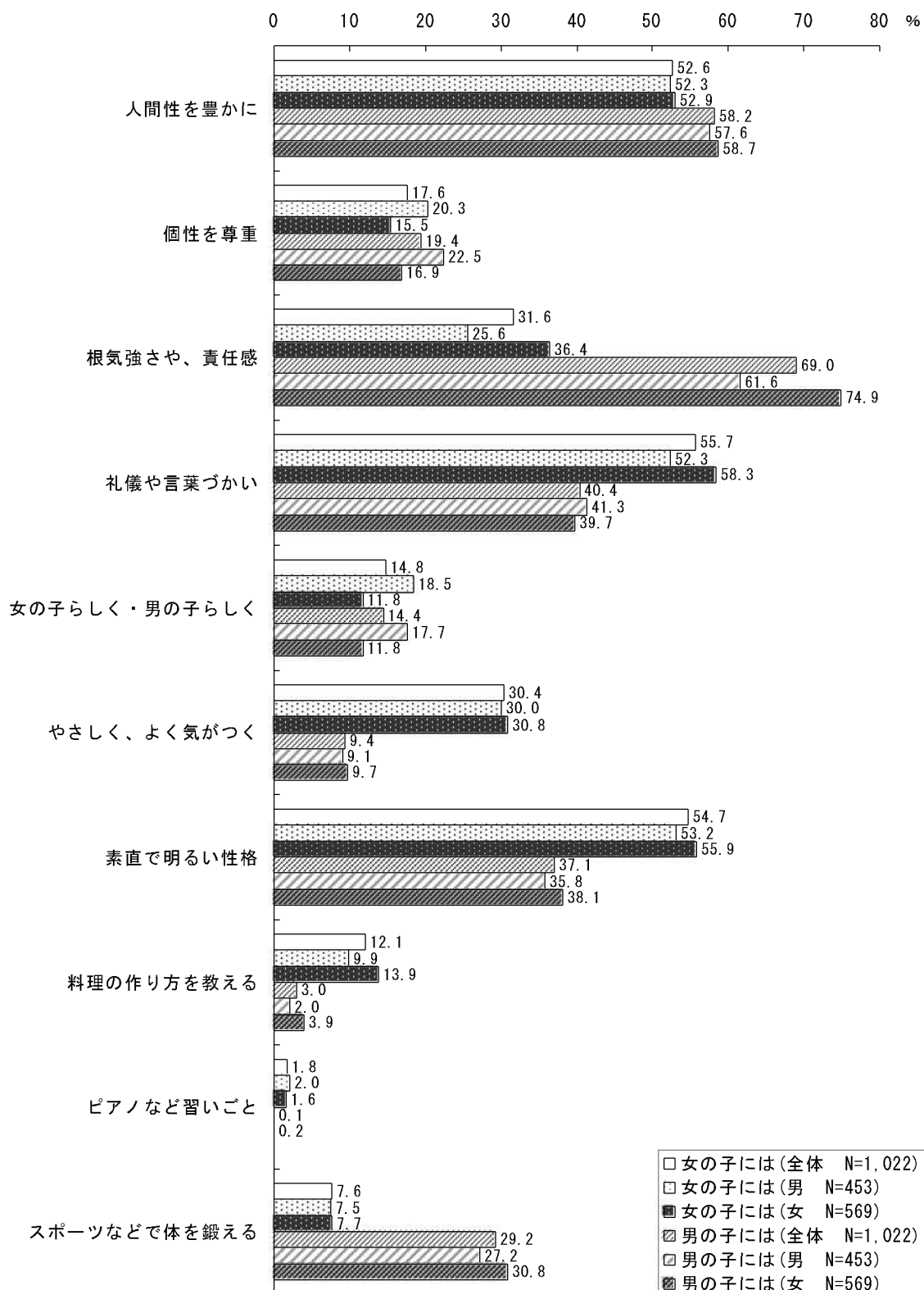
男女共同参画社会を実現するために力を入れるべきことについては、全体では「女性をとりまくさまざまな偏見や固定的な社会通念、慣習、しきたりを改めること」が3割強で最も高く、男性は「法律や制度の面で見直しを行い、男女差別につながるものを改めること」、女性は「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に能力の向上を図ること」が最も高い割合となっている。

「法律や制度の面で見直しを行い、男女差別につながるものを改めること」は男性が女性よりも高く、逆に「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に能力の向上を図ること」と「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」は女性が男性よりも高くなっている。



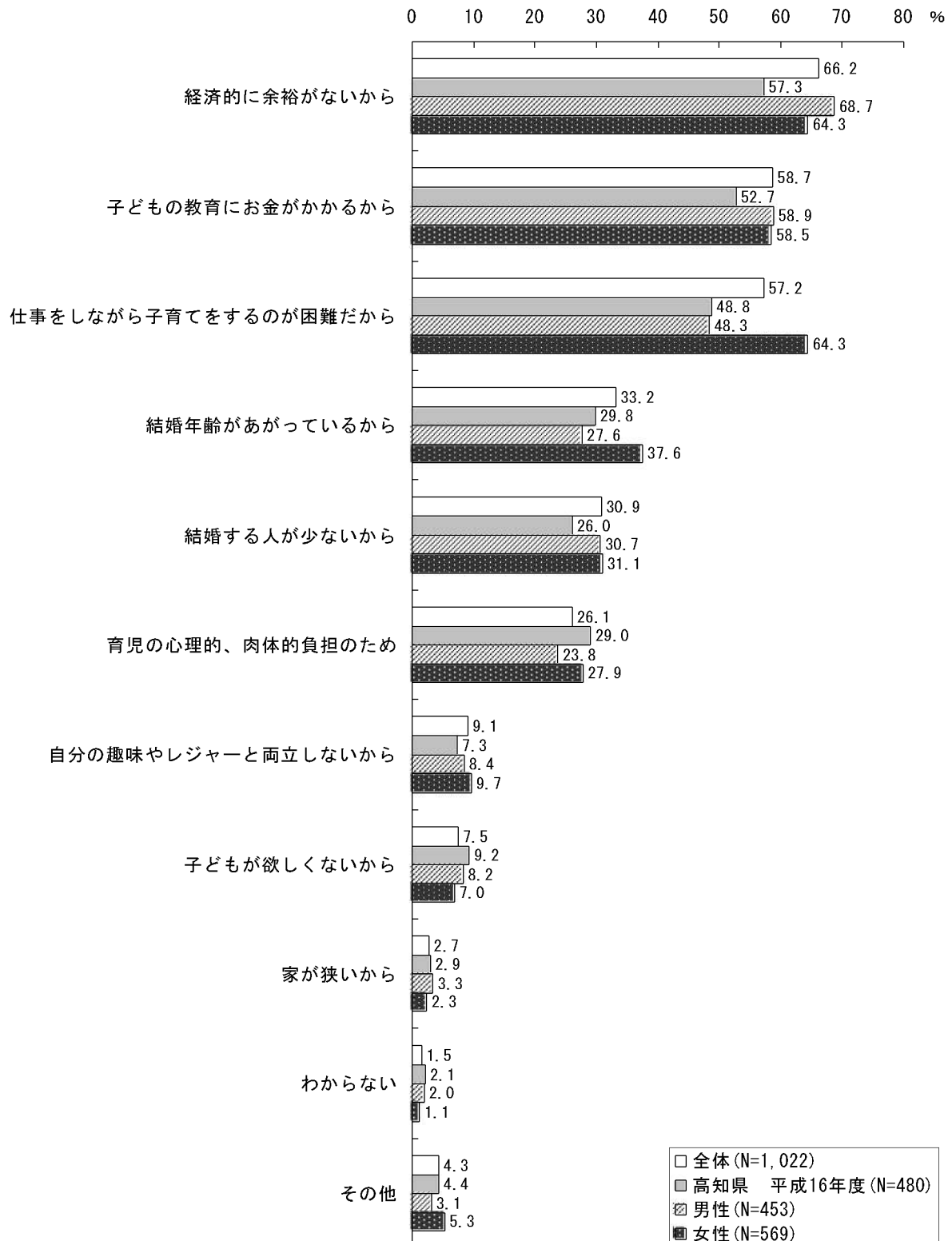
11. 子どもの育て方について（3つまで）

子どもの育て方についてみると、【女の子】には、男性は「素直で明るい性格」、女性は「礼儀や言葉づかい」を求めており、【男の子】には、男女とも「根気強さや、責任感」を求めている。



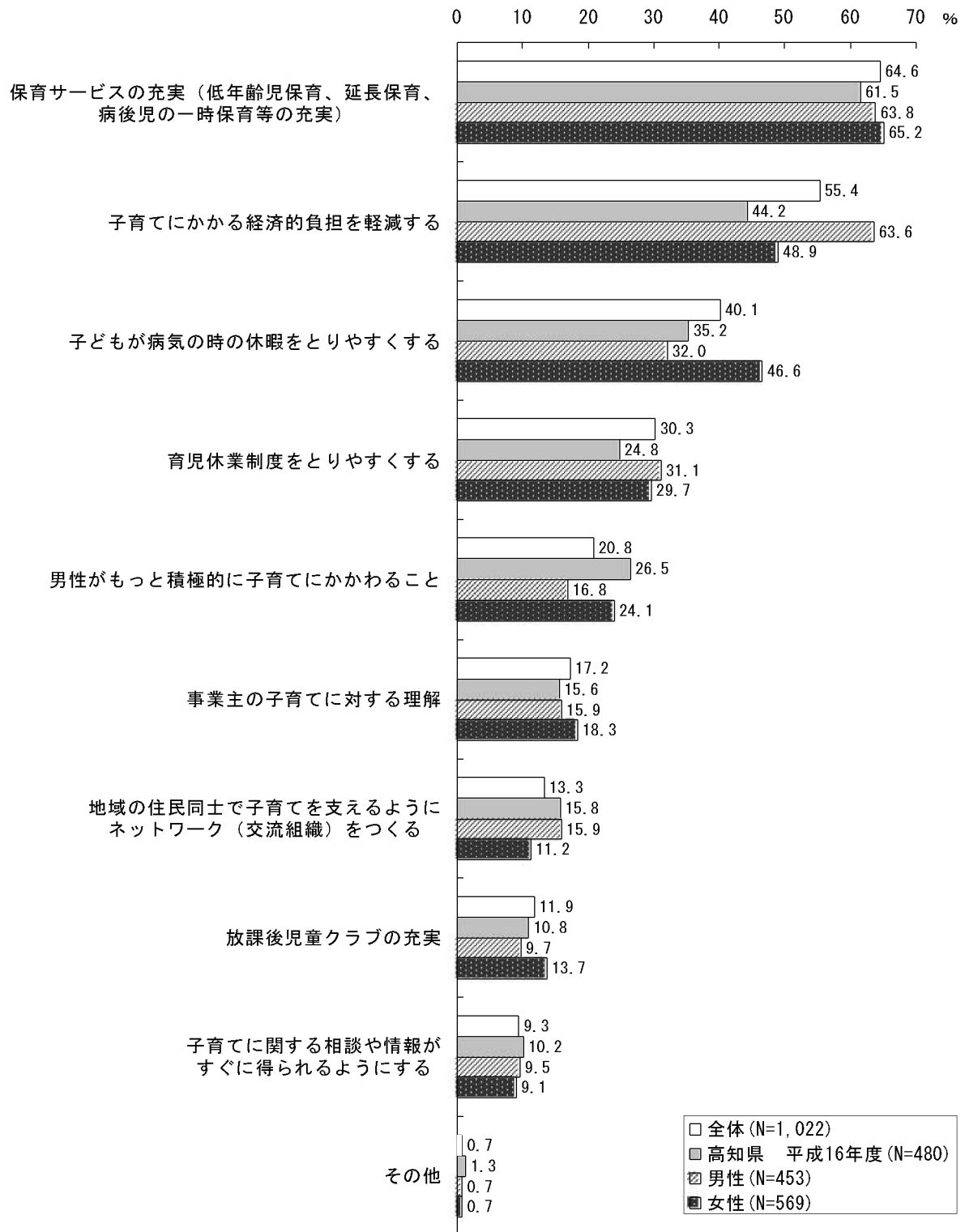
12. 出生数が少なくなっている理由（いくつでも）

出生数が少なくなっている理由としては、経済的な問題と、仕事と子育ての両立の困難さが主な理由となっている。仕事と子育ての両立の困難さについては、女性が6割半ば、男性は5割弱と、男女間に1割半ばの差がみられる。



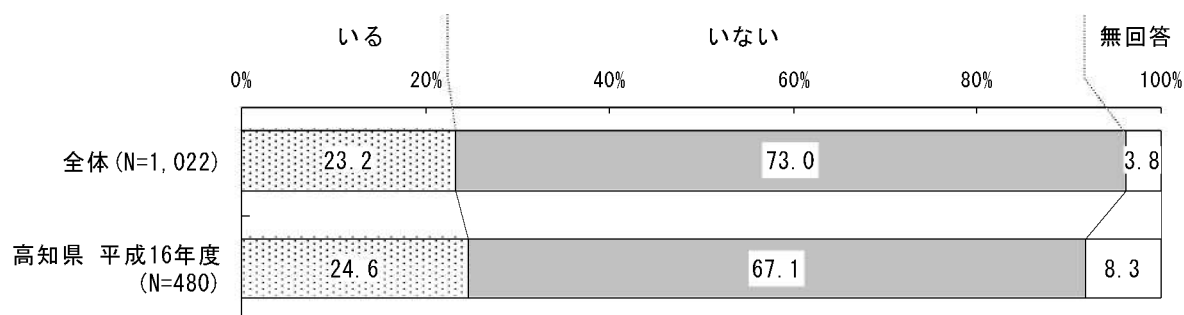
13. 子育てを支援するために必要だと思う条件整備（3つまで）

子育てを支援するために今後必要だと思う条件整備については、「保育サービスの充実」が6割半ばで最も高くなっている。「子育ての経済的負担の軽減」は男性が女性よりも高く、「子どもが病気の時の休暇をとりやすくする」は女性が男性よりも高くなっている。



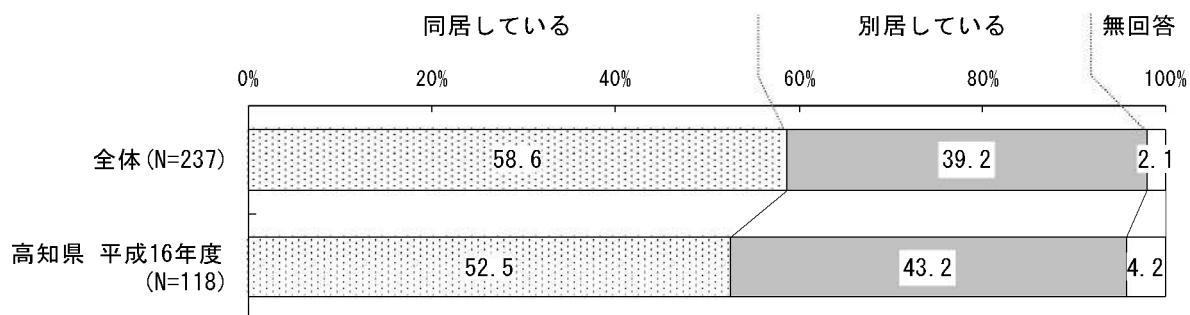
14. 介護の実態

日常生活において支援や介助を必要とする高齢者がいるかどうかについては、「いる」と答えた人は2割半ばとなっている。



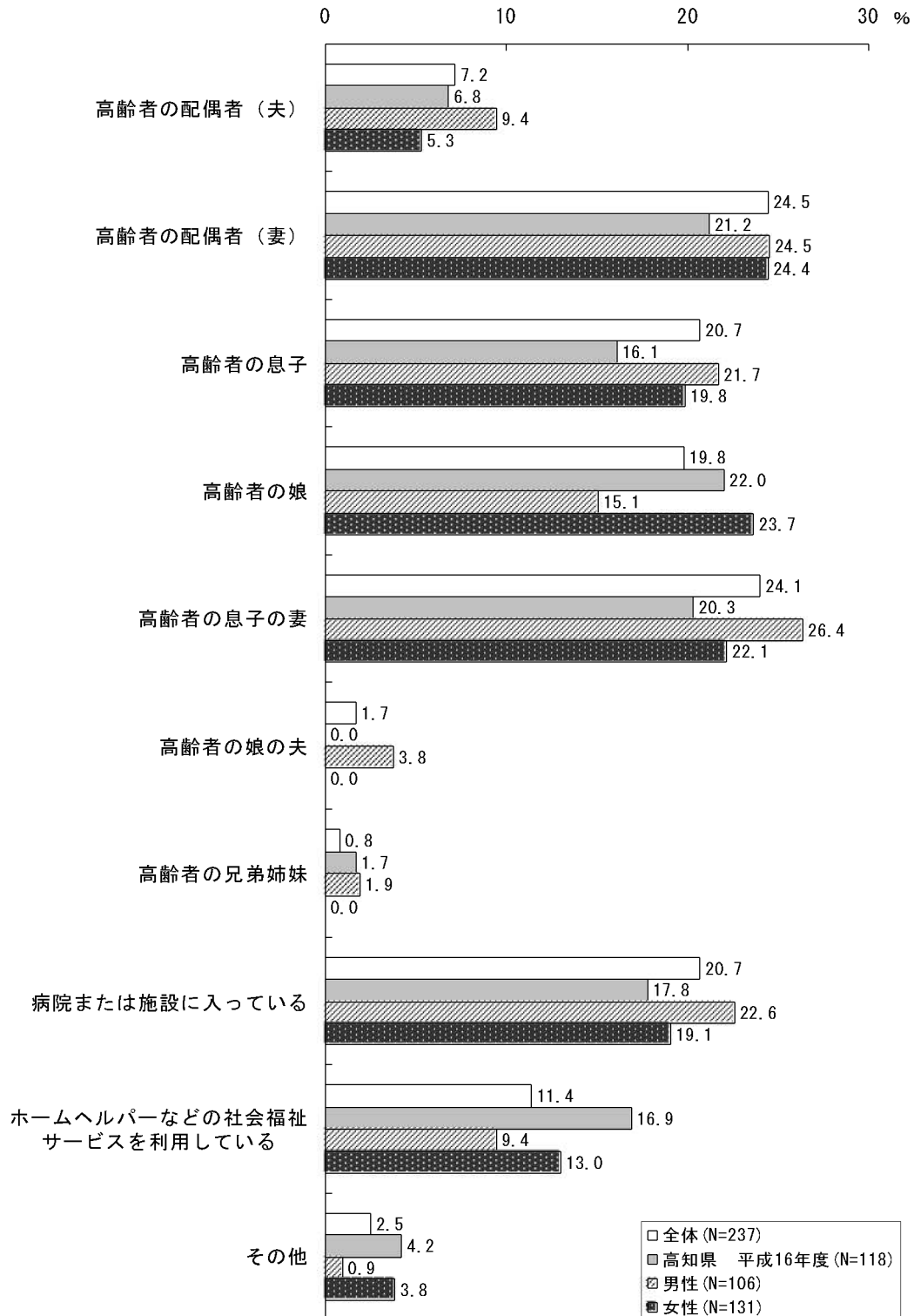
副問A 高齢者との同居

日常生活において支援や介助を必要とする高齢者が「いる」と答えた人に同居しているかどうかをたずねたところ、「同居している」という人の割合は、6割弱となっている。



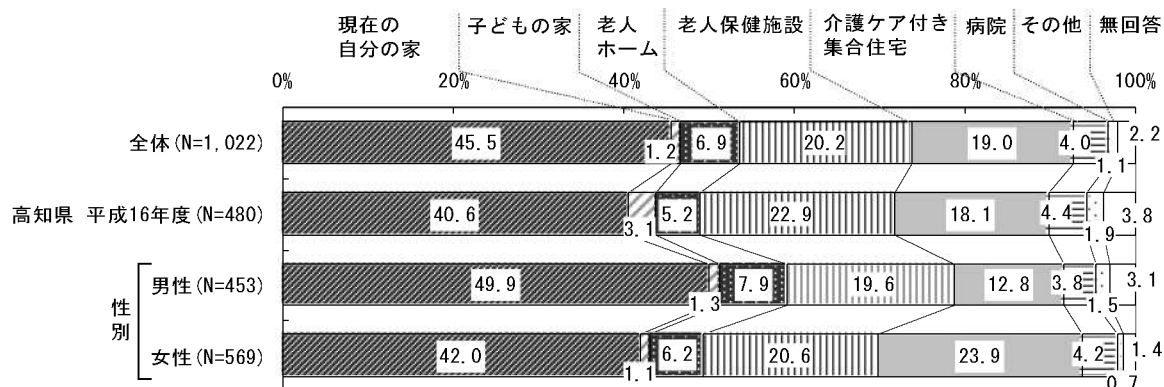
副問B 主な介護者（2つまで）

日常生活において支援や介助を必要とする高齢者の主な介護者については、「配偶者(妻)」と「息子の妻」がともに2割半ば、「娘」が2割弱で、女性が主に介護を担っている。「息子」は2割強で「娘」よりも比率がやや高く、「病院または施設に入っている」も2割強となっている。



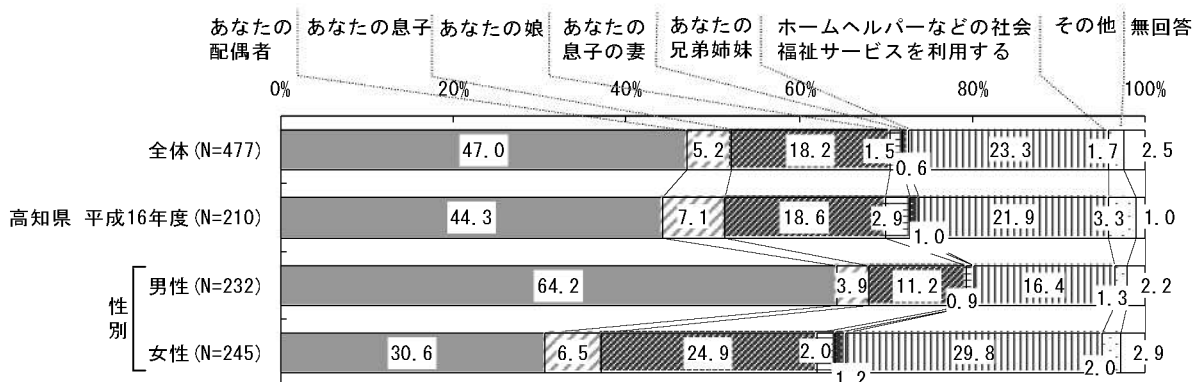
15. 将来の介護の希望

自身が介護を必要とするようになった場合の希望する介護の場所については、男性は「現在の自分の家」が5割弱で、これに「子どもの家」を加えた『在宅介護』を希望する人が5割強、女性は「介護ケア付き集合住宅」と「老人保健施設」、「老人ホーム」、「病院」を加えた『施設介護』を希望する人が5割半ばとなっている。



副問A 希望する主な介護者

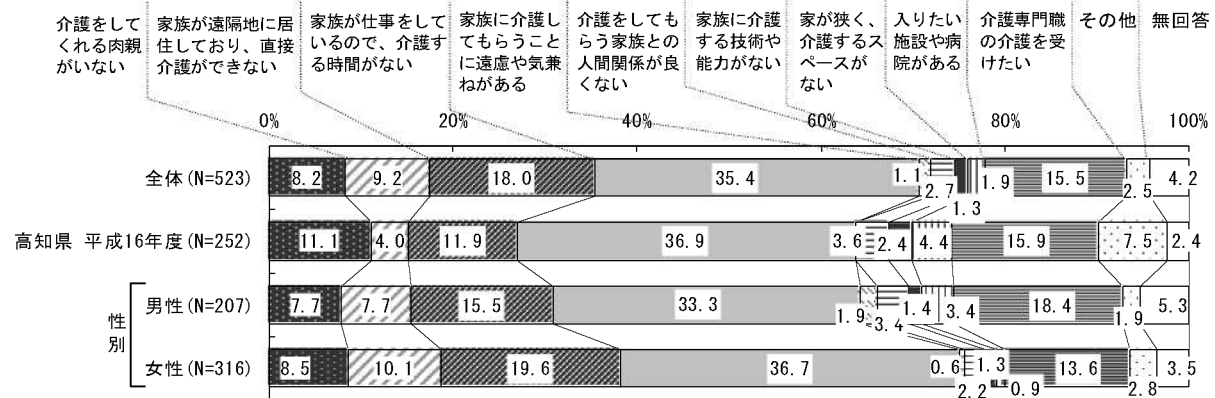
在宅介護を希望する人が希望する主な介護者についてみると、男性は「配偶者」を希望する人が6割半ばを占めている。一方、女性は「配偶者」を希望する人が3割強、「社会福祉サービスを利用する」が3割弱、「娘」が2割半ばと多様である。



※「あなたの娘の夫」の回答なし

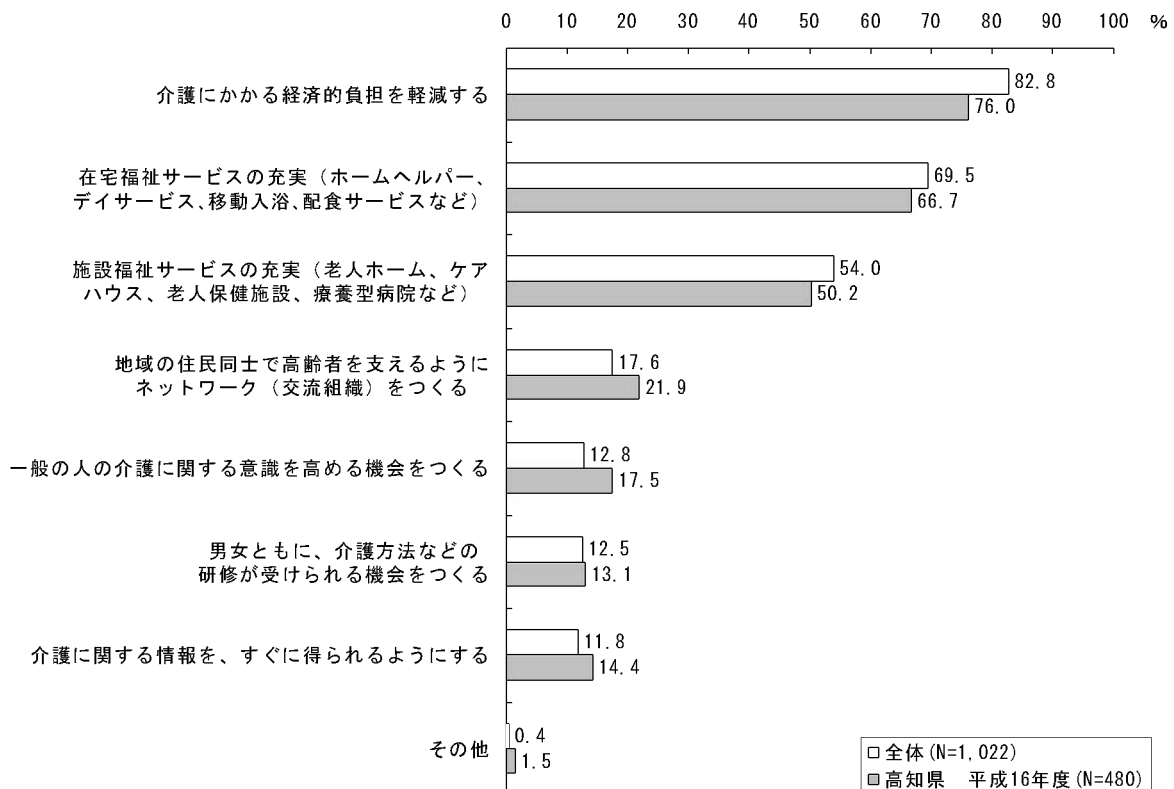
副問 B 施設介護を希望する理由

施設介護を希望する理由については、「家族に介護してもらうことに遠慮や気兼ねがある」が3割半ばとなっている。これに「家族が仕事をしているので介護する時間がない」を加えると5割半ばを占めることになる。



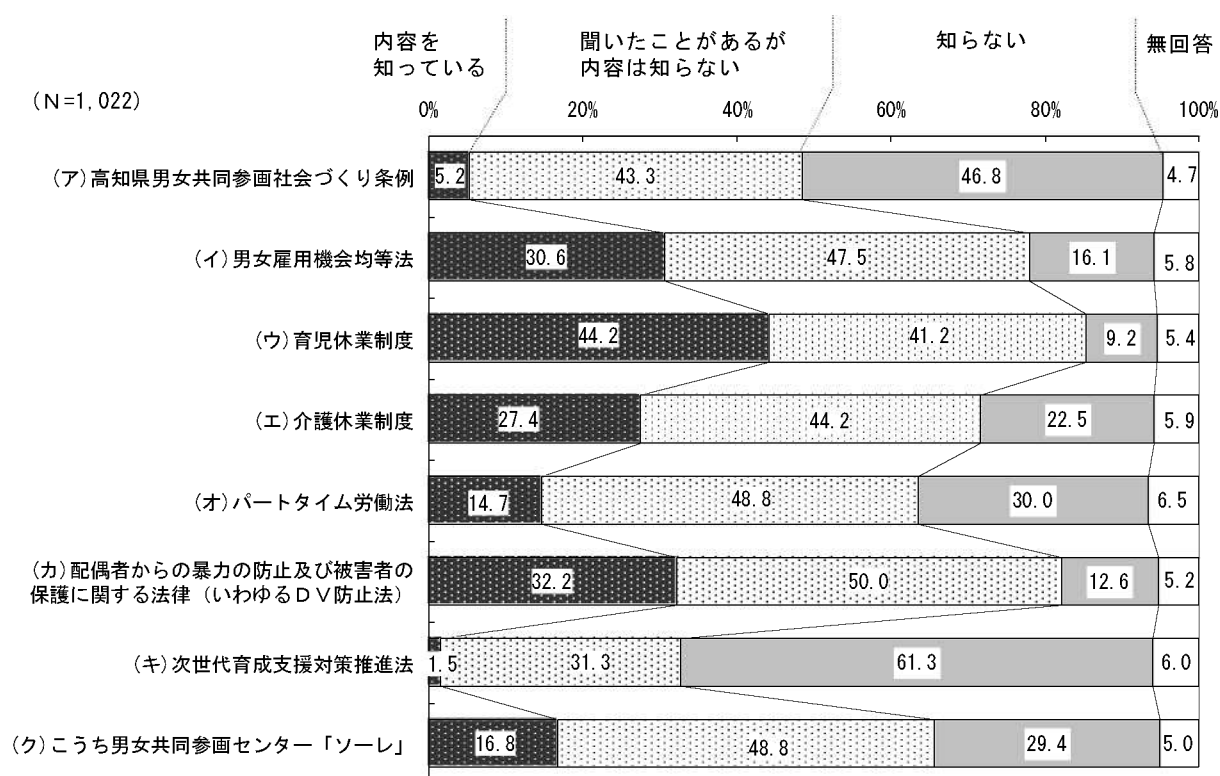
16. 高齢者を介護していくために、必要だと思われる条件整備 (3つまで)

高齢者を介護していくために必要だと思われる条件整備については、「介護にかかる経済的負担を軽減する」が最も高く8割強となっている。ついで「在宅福祉サービスの充実」が7割弱で、「施設福祉サービスの充実」も5割半ばとなっている。



17. 男女共同参画に関する法律や制度の周知度

男女共同参画に関する法律や制度についてどの程度知っているかについてみると、「内容を知っている」と答えた人の割合は、【育児休業制度】が4割半ばで最も高く、【配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（いわゆるDV防止法）】と【男女雇用機会均等法】が3割強、【介護休業制度】は3割弱となっている。そのほか、【こうち男女共同参画センター「ソーレ」】と【パートタイム労働法】については「内容を知っている」は1割半ばと少なく、【高知県男女共同参画社会づくり条例】と【次世代育成支援対策推進法】についてはさらに少なくなっている。

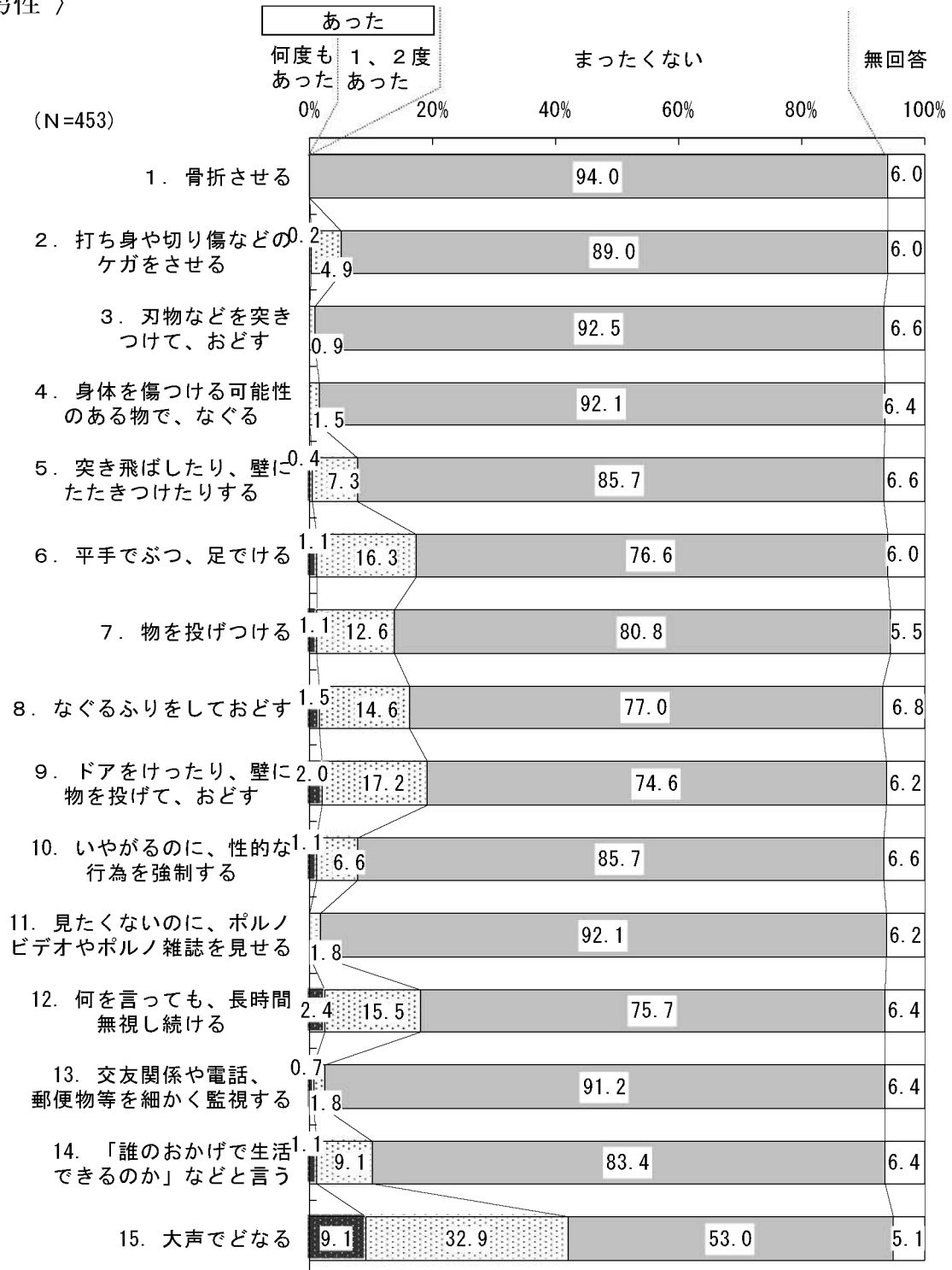


18. 配偶者や恋人関係にあった者への暴力等の行為について

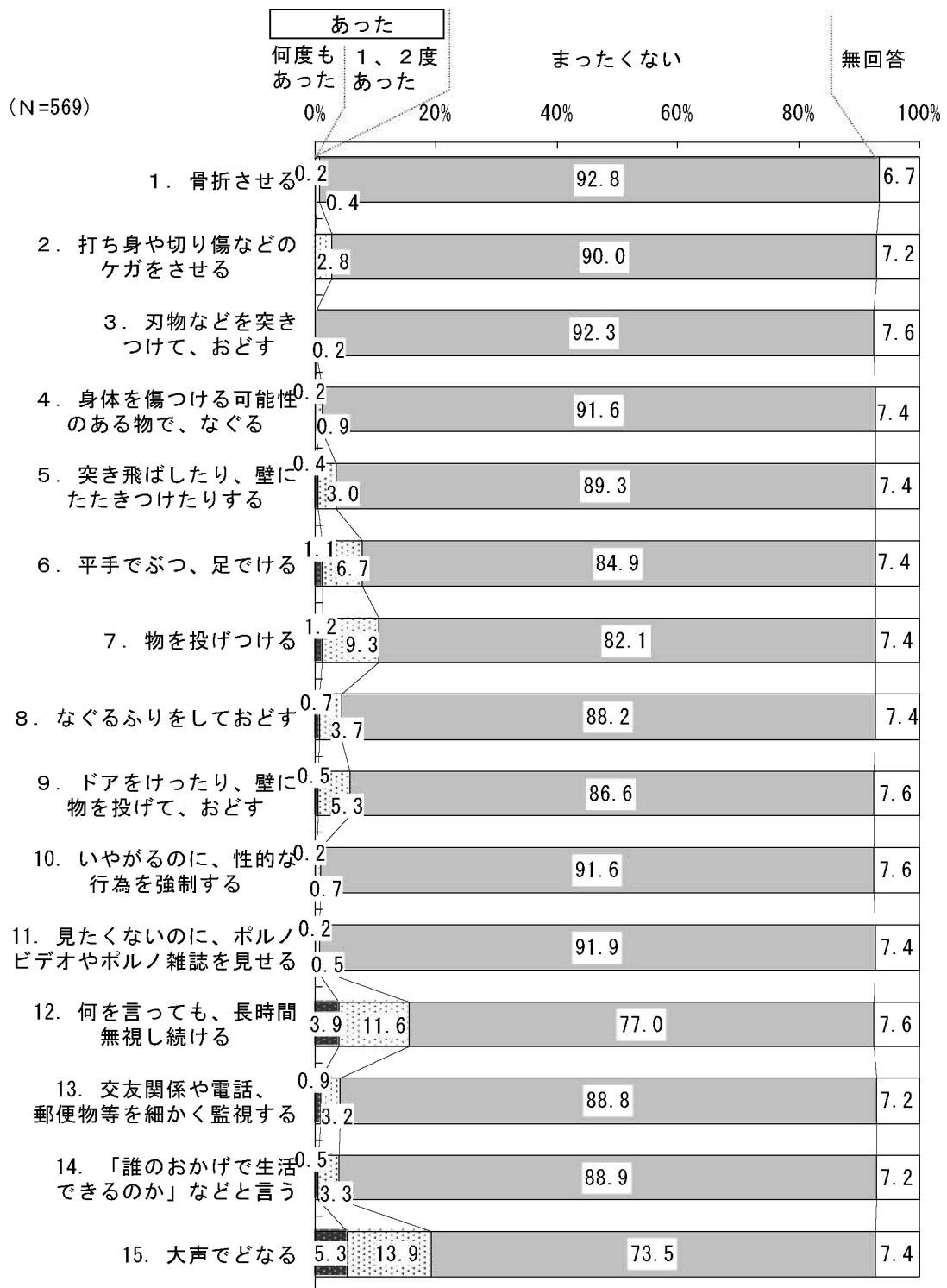
配偶者や恋人関係にあった者に対して暴力等の行為をしたことがあったかどうかについては、『あった』という割合は、男女とも「大声でどなる」が最も高く、2番目に高いのは、男性は「ドアをけったり、壁に物を投げて、おどす」、女性は「何を言っても、長時間無視し続ける」となっている。

注)『あった』:「何度もあった」+「1、2度あった」

〈男性〉

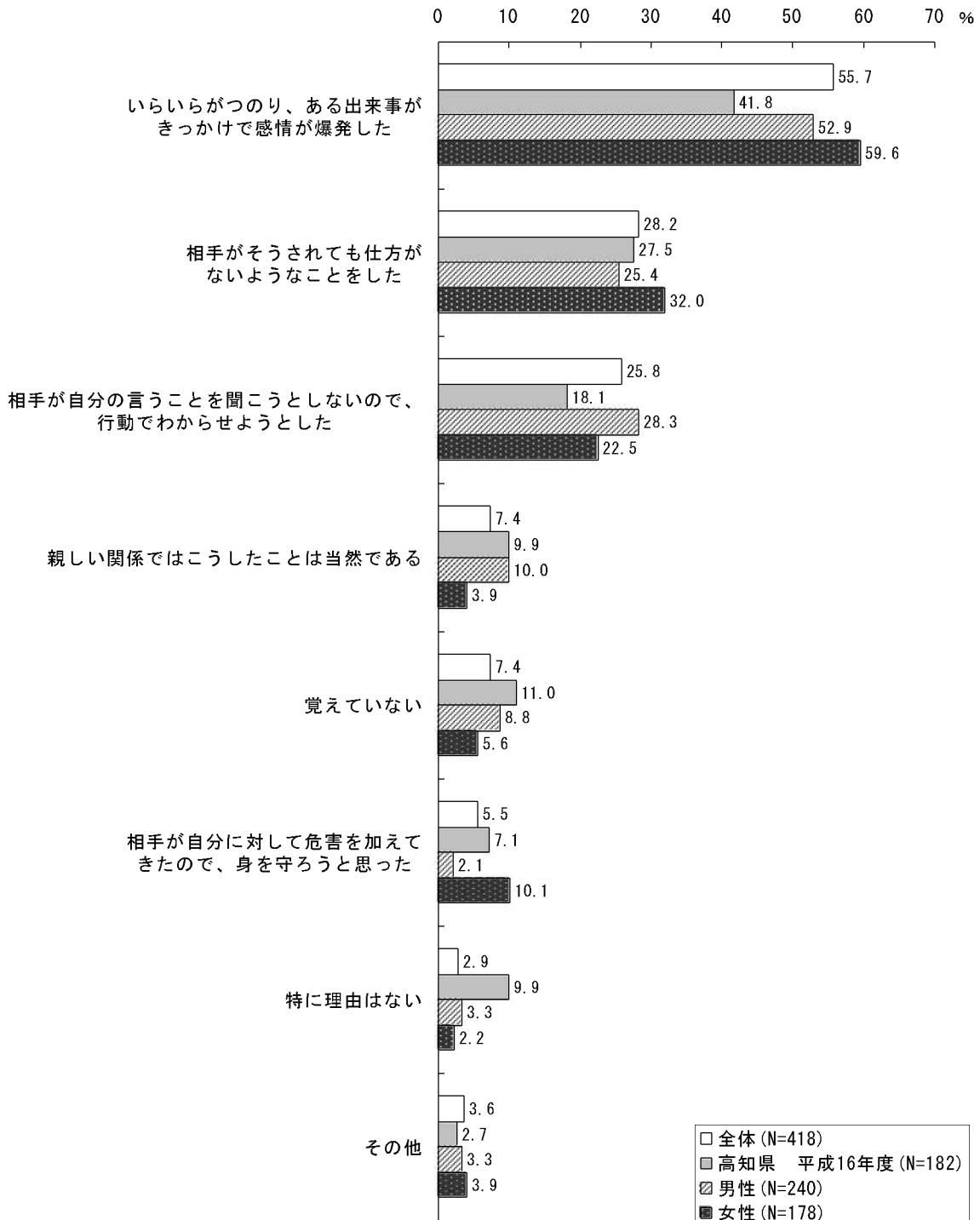


〈 女性 〉



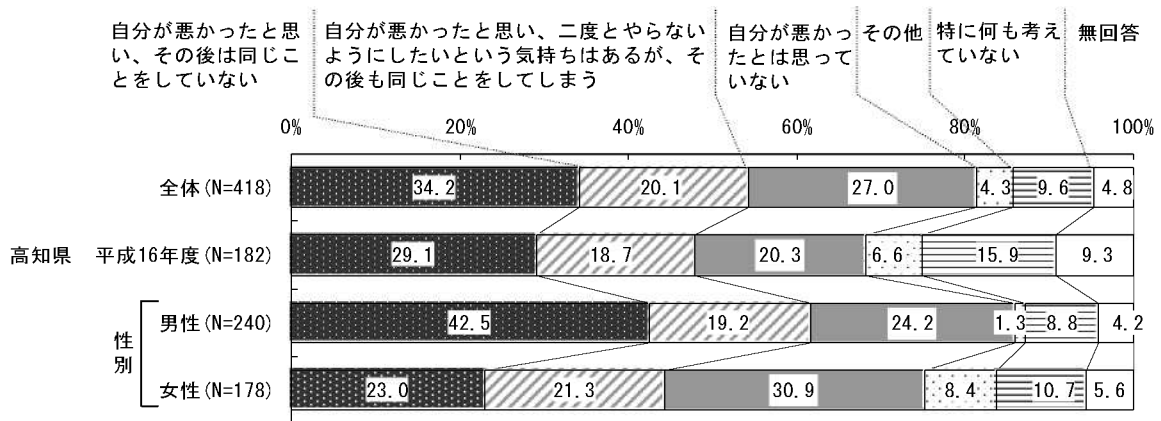
(1) 配偶者や恋人関係にあった者に暴力等の行為をするに至ったきっかけ(いくつでも)

配偶者や恋人関係にあった者に対して暴力等の行為をしたことが一度以上あったと答えた人がそうした行為に至ったきっかけとしては、男女とも「いらいらがつわり、ある出来事がきっかけで感情が爆発した」が最も高く、ついで男性は「相手が自分の言うことを聞こうとしないので行動でわからせようとした」、女性は「相手がそうされても仕方がないようなことをした」となっている。



(2) 配偶者や恋人関係にあった者への暴力等の行為についての気持ち

配偶者や恋人関係にあった者に対して暴力等の行為をしたことがある人がそのような行為についてどのように考えているかについては、男性は「自分が悪かったと思い、その後は同じことをしていない」という割合が高く、女性は「自分が悪かったとは思っていない」が高くなっている。

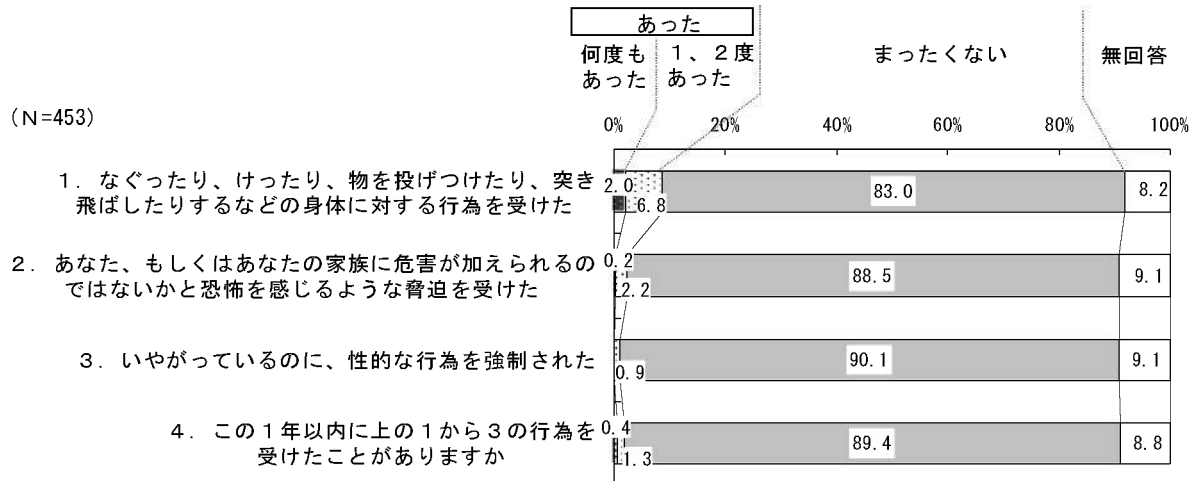


19. 配偶者や恋人関係にあった者による暴力等の行為について

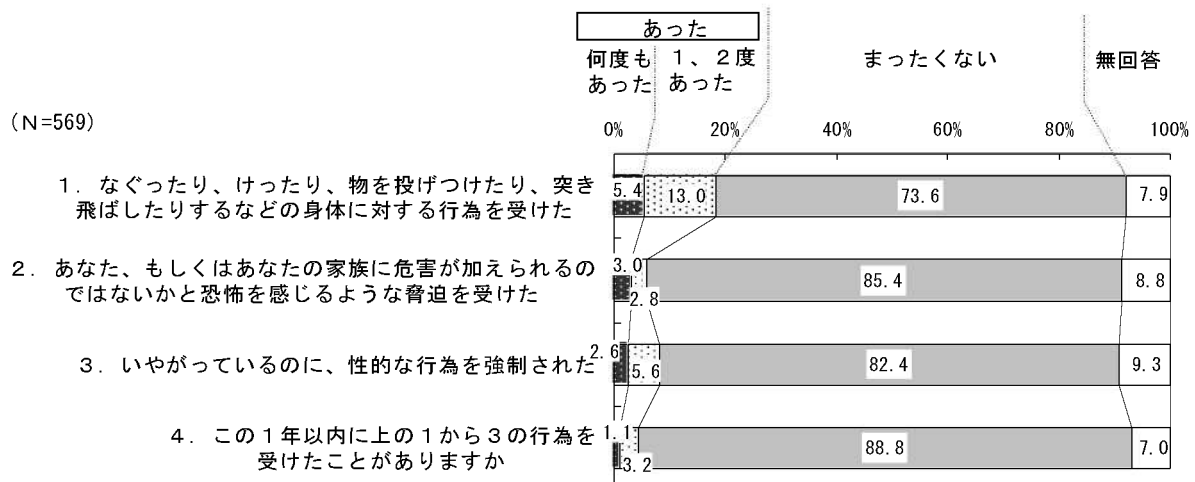
配偶者や恋人関係にあった者から暴力等の行為を受けたことがあるかどうかについては、『あった』という割合は、男女とも【なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する行為を受けた】が最も高く、女性 18.4%、男性 8.8%となっている。

注)『あった』:「何度もあった」+「1、2度あった」

〈 男性 〉

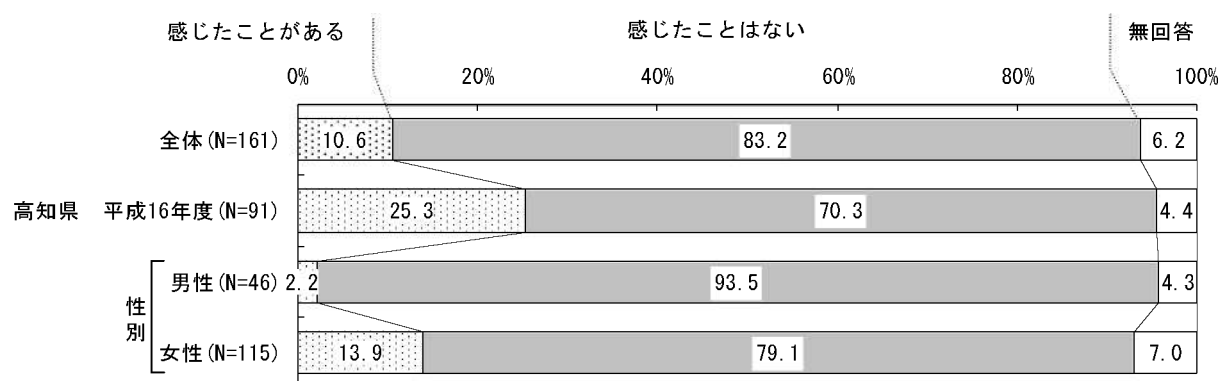


〈 女性 〉



(1) 配偶者等の暴力行為による命の危険

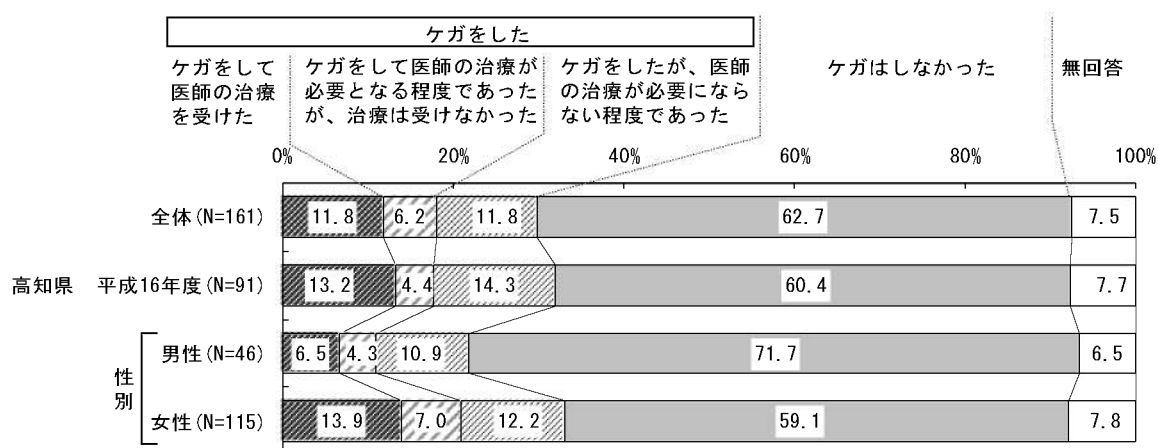
配偶者や恋人関係にあった者から暴力等の行為を一度以上受けたことがあるという人が相手の暴力行為によって命の危険を感じたことがあるかどうかについては、「感じたことがある」という割合は、女性が13.9%で、男性の2.2%を11.7ポイント上回っている。



(2) 配偶者等の暴力行為によるケガ、治療の有無

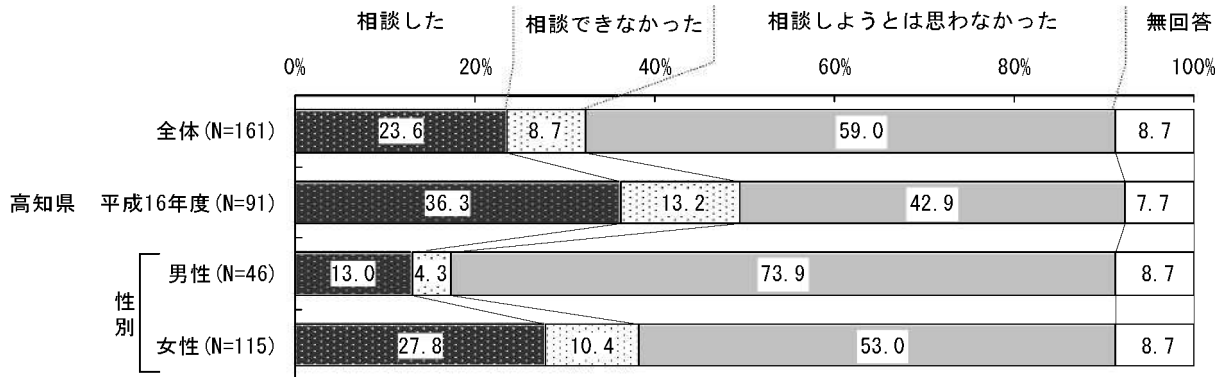
配偶者等による暴力行為によってケガをしたり、治療を受けたことがあるかどうかについてみると、『ケガをした』という割合は、女性が3割半ばで、男性は2割強となっている。

注)『ケガをした』:「ケガをして医師の治療を受けた」+「ケガをして医師の治療が必要となる程度であったが、治療は受けなかった」+「ケガをしたが、医師の治療が必要にならない程度であった」



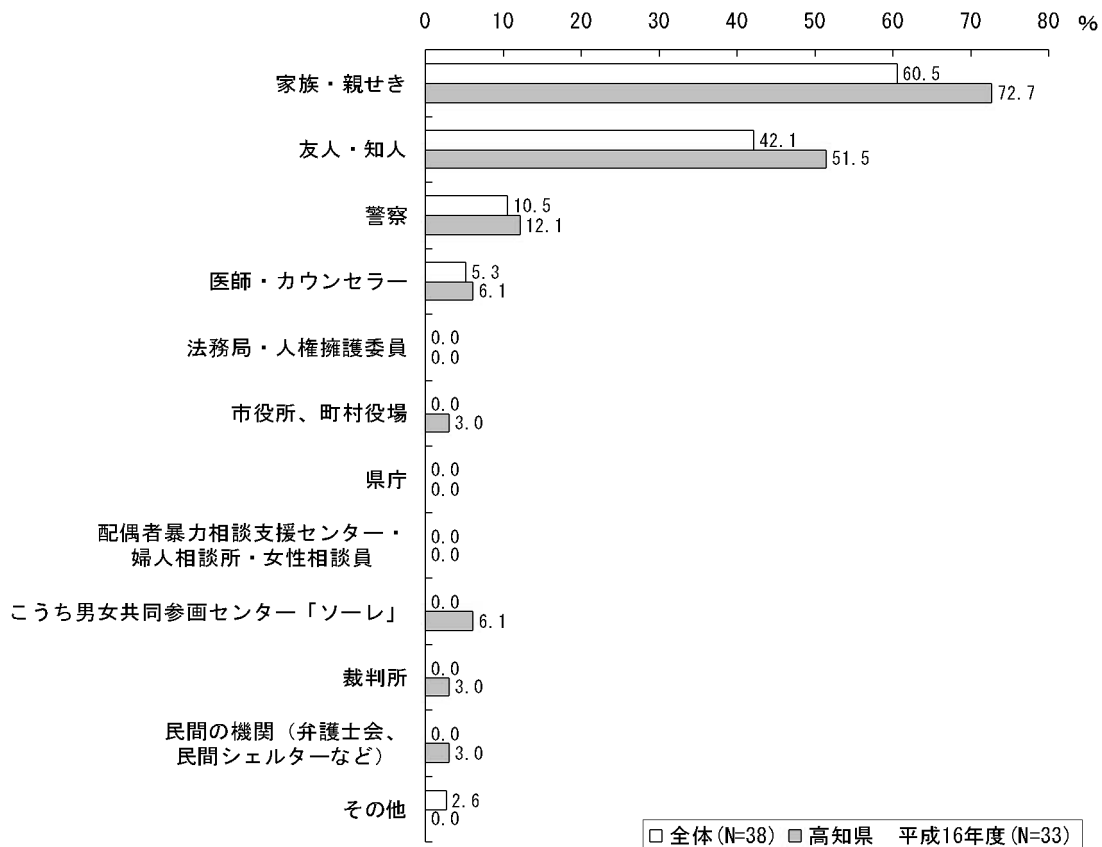
(3) 配偶者等による暴力等の行為についての相談

配偶者等による暴力等の行為について第三者に相談しようとしたかどうかについては、「相談しようとは思わなかった」という割合が最も高く、その割合は男性が7割半ば、女性は5割強となっている。「相談した」割合は、男性が1割強、女性は3割弱となっている。



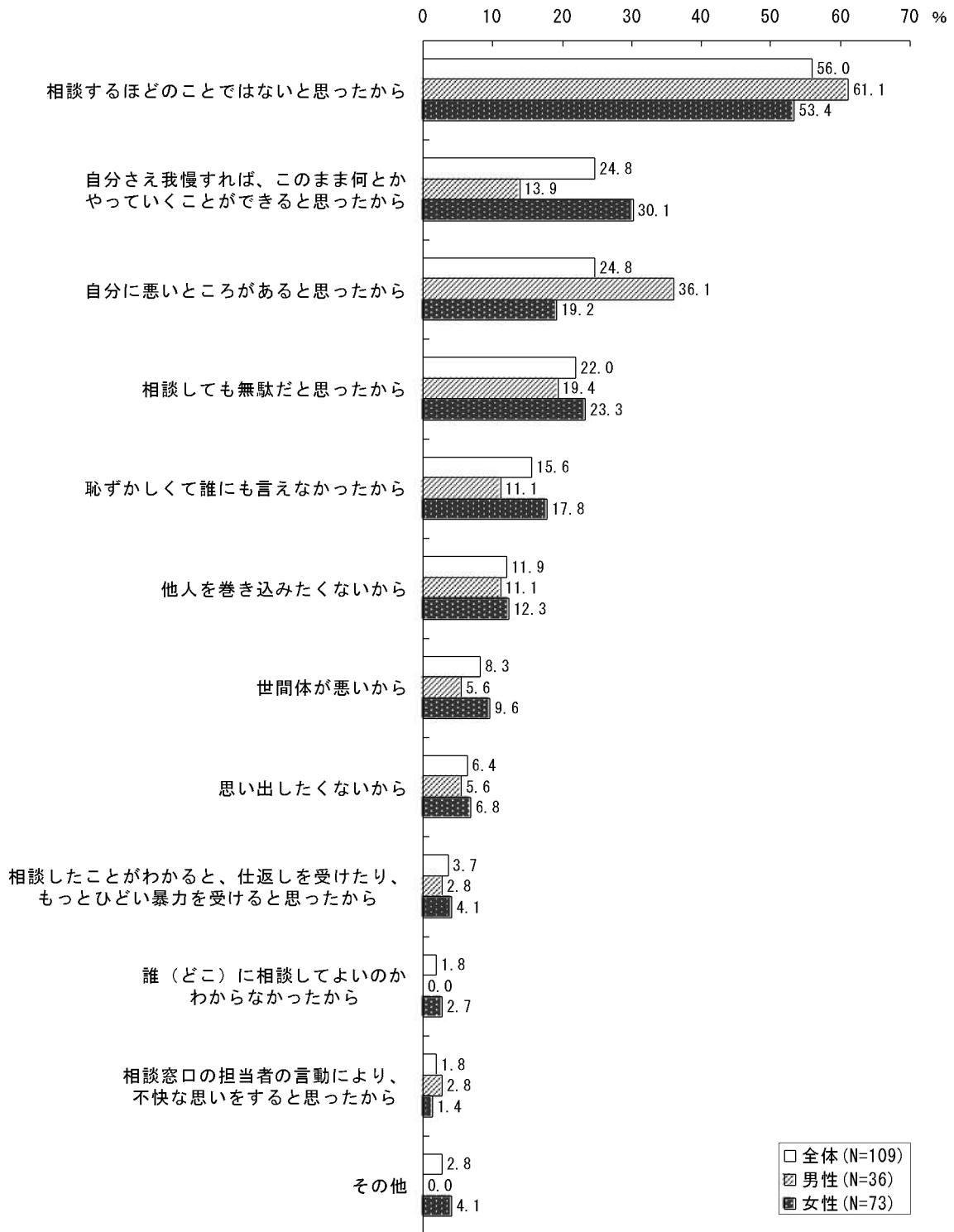
(4) 相談した人(場所)

配偶者等による暴力等の行為について相談した相手としては、「家族・親せき」が6割強、「友人・知人」が4割強となっている。



(5) 相談できなかった、相談しようと思わなかった理由

配偶者等による暴力等の行為について相談できなかった、相談しようと思わなかった理由については、男女とも「相談するほどのことではないと思ったから」が最も高いが、その比率は男性が女性よりも高くなっている。「自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思ったから」は女性が男性を上回り、「自分に悪いところがあると思ったから」は男性が女性を上回っている。



平成19年度
男女共同参画社会に関する市民意識調査報告書 [概要版]

平成20年3月 発行

発行 香南市
編集 香南市人権課
〒781-5292 高知県香南市野市町西野2706番地
TEL 0887-57-8507
FAX 0887-56-0576
e-mail jinken@city.kochi-konan.lg.jp
ホームページ <http://www.city.kochi-konan.lg.jp/>
